

評価グリッド（実績及び実施プロセス結果表）

（注1）本表中の「プロジェクト」とは PRDP2 プロジェクトを指す。
（注2）「VC (Village Committee)」は現在のプロジェクト内の用語統一にあわせて「GC (Gram Committee)」として記載している。

評価項目	評価設問		指標・判断基準	結果
	大項目	小項目		
実績	プロジェクト目標「村落住民と末端の農村開発行政機関を結び、村落住民の意向が開発に反映される仕組み(リンクモデル)が対象地域において機能し、その普及の体制が整備う。」の達成度の現状と見込み		1. リンクモデル関係者(地方政府と住民)の活動への積極的参加	以下の関係者がリンクモデル活動に次第に積極的に参加するようになってきており、計画された活動及び投入が行われればプロジェクト終了時における達成の見込みは高い。 ● 郡レベル：カリハティ郡ではデータはないもの郡令によりリンクモデルの認知度は高い。郡令 (UNO) 及び各省行政官 (NBDs Officers) がリンクモデルの有効性を認め、積極的に支持するようになりつつある。2007 年 11 月には UNO の指示により JICA 専門家及び ARDO が郡開発調整会議 (UpDCC) のオブザーバーとなっている。また各省行政官 (NBDs Officer) は普及員 (NBDs) に UCCM への参加と欠席した場合はその理由を届けるよう指示している。 ● ユニオンレベル：UP 議長により差があるものの、UCCM が月例会としてほぼ定期的の実施されている。 ● 村落レベル：GC 設置数及びスキーム実施数は増加しつつあるが、活動状況は村によって差がある。
			2. 実施された村落開発活動の質及び数（活動数と内容の推移）	● 現時点で利用可能データは、GC 及び MD 設置数、GC 及び UCCM スキーム数、GCM 開催数であり、数は増加している。 ● 現場で GC 活動を見ている UDO によれば活動的な GC も多い。
			3. 普及に向けた行動計画の内容（行動計画の有無と内容）	● 全国レベルの普及に向けた詳細行動計画は策定されていないが、2007 年 10 月にリンクモデル拡大検討のための委員会（*注）が設置され、Tangail 県にある 5 ユニオン (Sadar 郡 Korotia, Dainya, Porabari ユニオン及び Delduar 郡の Delduar Sadar, Dubail) でのパイロット実施が決まっている（2008 年 7 月開始予定）。 *PRAC: Proress Review and Advisory Committee
	成果は達成されているか（計画通り成果が産出されているか）	成果 1 「ユニオン調整委員会 (UCC) の連絡調整を担うユニオン開発官 (UDO) 及びオーガナイザー(O)が BRDB の行政官として育成される。」の達成度	1. UDO16 名と O16 名がリクルートされる 2. 80%の UDO と O がプロジェクト週例会議と隔月プロジェクト連絡会議に出席する 3. UDO が BRDB に月間報告を提出する	● 達成されている。2005 年 10 月に 16 名の UDO/O が適正な手順で採用された。2008 年 3 月現在 32 名が UDO/O として働いている。 ● 「研修を受けた UDO/O がプロジェクトに継続して勤務する」ことは、PDM の「活動」から「成果」への外部条件である。離職者が予想外に多かった（現在までに 43 名採用、11 名離職）ことは活動の進捗及び効率に影響を及ぼしたが、随時補充が行われてきており、成果達成を障害する大きな問題とはなっていない。 ● 達成されている。 ● 週会議は 2006 年 1 月から各プロジェクトサイトで実施され、特段の事情のある者を除いて全員が出席している。 ● 隔月プロジェクト連絡会議はプロジェクト開始時より四半期会議となっている。UDO/O の 80%以上が出席している。 ● 達成されている。 ● 2006 年 4 月から UDO が書式に則った月例報告書を各郡 URDO に提出している。UDO (ユニオン・レベル) → URDO (郡レベル) → LMC (プロジェクト事務所) → BRDB, RDCCD (局), MLGRD&C (省) というプロジェクトの進捗報告システムは定着していると言える。 ● UDO による月例報告は数値目標の達成を主体としているため、プロジェクトでは各種会

評価項目	評価設問		指標・判断基準	結 果																													
	大項目	小項目																															
		成果 2 「UCC が、郡、ユニオン(行政村)、村落間の連携を強化する土台として機能する。」の達成度（見込み）	指標・判断基準	議の場でプロセスに関する検証・議論する機会を設けている。																													
			4. 研修を受けた UDO、O の数	- 指標は概ね活動計画どおり実施され、UDO/O は受けるべき研修を受けつつある。 - UDO 及びオーガナイザー（O）に対する研修実施回数及び人数は以下のとおり。 <table><thead><tr><th>実施年月</th><th>研修名</th><th>人数</th></tr></thead><tbody><tr><td>2005 年 10 月</td><td>新規雇用職員研修 13</td><td>UDO 0</td></tr><tr><td>2006 年 2 月 Skill</td><td>up Training1: GC スキームと世帯調査 15</td><td>14</td></tr><tr><td>2006 年 6 月 Skill</td><td>up Training2: GC スキーム実施手順とファシリテーション能力向上</td><td>0</td></tr><tr><td>2006 年 8 月 Skill</td><td>up Training3: NBDs 紹介と実地研修 15</td><td>15 14</td></tr><tr><td>2007 年 3 月</td><td>Study Visit to Sirajgonj (Kalhati, 5 ユニオン) 5</td><td>14</td></tr><tr><td>2007 年 6 月</td><td>新規雇用職員研修（退職した職員の補充のため） 4</td><td>0</td></tr><tr><td>2007 年 7 月 Skill</td><td>up Training4: 年間活動計画作成 16</td><td>5</td></tr></tbody></table> - UDO・オーガナイザーは研修内容は非常に役に立っていると評価しているが、Facilitation skill や Communication skill の研修がさらに必要と感じている者が多い。 - 達成されている。 2005 年 11 月 2 日付でプロジェクト対象地域の 15 ユニオン（注 1）における UCC 設置に関する公式文書（Gazette Notification）が発行され、これに基づき PRDP2 の新ユニオン（注 2）での最初の UCCM が 2006 年 1 月開催され、現在 15 ユニオン全てで UCCM が毎月ほぼ定期的に開催されている。 2008 年 1 月までにプロジェクト対象ユニオンで総計 616 回の UCCM が開催されている。 （注1） プロジェクト開始直前にカリハティ郡のユニオン数が 12 から 11 に変更になりプロジェクト対象ユニオン数の合計は 15 になった。 （注2） カリハティ郡の 4 ユニオン（シヨホデブール（Shahadebpur）、ナランディア（Narandia）、バングラ（Bangra）、サラ（Salla）、メヘルブール郡クツブプール（Kutubpur）ユニオン、ティダシユ郡ジョゴトブール（Jagatpur）ユニオンはフェーズ 1 からの継続ユニオンである。 2006 年 1 月（フェーズ 1 からの継続ユニオンは 2005 年 7 月）～2007 年 10 月までの、関係者の UCCM 出席率は以下のとおりであり、平均では NBDs の出席率が 60% をやや下回るほかは 60% に達している。GC の出席率は平均で 70%、メンバーの中で最も高い。 - 全体でみると概ね達成されているが、ユニオンによりバラツキがある。特に UP 及び NGO に関しては低い出席率が目立つユニオンがある。 - カリハティ郡では UCCM に出席できなかった NBDs 普及員はその理由を各郡レベル担当官に報告することが最近義務付けられた。	実施年月	研修名	人数	2005 年 10 月	新規雇用職員研修 13	UDO 0	2006 年 2 月 Skill	up Training1: GC スキームと世帯調査 15	14	2006 年 6 月 Skill	up Training2: GC スキーム実施手順とファシリテーション能力向上	0	2006 年 8 月 Skill	up Training3: NBDs 紹介と実地研修 15	15 14	2007 年 3 月	Study Visit to Sirajgonj (Kalhati, 5 ユニオン) 5	14	2007 年 6 月	新規雇用職員研修（退職した職員の補充のため） 4	0	2007 年 7 月 Skill	up Training4: 年間活動計画作成 16	5					
実施年月	研修名	人数																															
2005 年 10 月	新規雇用職員研修 13	UDO 0																															
2006 年 2 月 Skill	up Training1: GC スキームと世帯調査 15	14																															
2006 年 6 月 Skill	up Training2: GC スキーム実施手順とファシリテーション能力向上	0																															
2006 年 8 月 Skill	up Training3: NBDs 紹介と実地研修 15	15 14																															
2007 年 3 月	Study Visit to Sirajgonj (Kalhati, 5 ユニオン) 5	14																															
2007 年 6 月	新規雇用職員研修（退職した職員の補充のため） 4	0																															
2007 年 7 月 Skill	up Training4: 年間活動計画作成 16	5																															
				<table><thead><tr><th rowspan="2">Name of Union</th><th colspan="4">UCCM Attendance Rate (%)</th></tr><tr><th>UP NBDs</th><th>VC (GC)</th><th>NGO</th><th>Total</th></tr></thead><tbody><tr><td>Balla 69</td><td></td><td>66</td><td>88</td><td>66</td></tr><tr><td>Bangra 38</td><td></td><td>50</td><td>54</td><td>41</td></tr><tr><td>Birbashinda 72</td><td></td><td>54</td><td>68</td><td>100</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td>62</td></tr></tbody></table>	Name of Union	UCCM Attendance Rate (%)				UP NBDs	VC (GC)	NGO	Total	Balla 69		66	88	66	Bangra 38		50	54	41	Birbashinda 72		54	68	100					62
Name of Union	UCCM Attendance Rate (%)																																
	UP NBDs	VC (GC)	NGO	Total																													
Balla 69		66	88	66																													
Bangra 38		50	54	41																													
Birbashinda 72		54	68	100																													
				62																													

評価項目	評価設問		指標・判断基準	結果																																																																										
	大項目	小項目																																																																												
実績（続き）				Durgapur		67	56	82	70	63																																																																				
				Ellenga 59			56	82	79	62																																																																				
				Kokdahara 50			55	71	75	57																																																																				
				Nagbari 72			58	75	92	64																																																																				
				Narandia 73			61	66	48	64																																																																				
				Paikora 74			62	86	90	71																																																																				
				Salla 69			54	64	65	60																																																																				
				Shahadebpur 66			54	59	41	52																																																																				
				Kalihati Total		64	57 72		70	62																																																																				
				Kutubpur 63			51	79	42	58																																																																				
			Porojpur 34			56	75	35	53																																																																					
			Meherpur Total		49	54	77	39	56																																																																					
			Jagatpur 50			53	84	-	59																																																																					
			Ziarkandi 60			60	71	23	63																																																																					
			Titas Total		55	57	78	23	61																																																																					
			Grand Average		61	57	74	61	60																																																																					
				(2007 年 10 月現在のデータ)																																																																										
			3. ユニオンに掲示板が設置される	● 掲示板は設立された GC 数より多く設置されており、2008 年 1 月までに設置された掲示板総数は 415 である。(TAPP では目標設置数 562 が設定されており、その達成率は 74%である。) ● 掲示板は基本的に GC 設立村落内に設置されるが、そのほかにもユニオン事務所前、ローカルマーケット、主要道路沿いなど、より人が多く集まる場所が選ばれて設置されている。 <table><tr><th>Name of Upazila</th><th>No. of Notice Boards</th><th>No. of GC</th><th>No. of Notice Boards / GC</th></tr><tr><td>Kalihati (11 Unions)</td><td>291 146</td><td></td><td>1.99</td></tr><tr><td>Meherpur (2 Unions)</td><td>28 23</td><td></td><td>1.22</td></tr><tr><td>Titas (2 Unions) 29</td><td></td><td>23</td><td>1.26</td></tr><tr><td>Total 348</td><td></td><td>192</td><td>1.81</td></tr></table> (2007 年 10 月現在のデータ)							Name of Upazila	No. of Notice Boards	No. of GC	No. of Notice Boards / GC	Kalihati (11 Unions)	291 146		1.99	Meherpur (2 Unions)	28 23		1.22	Titas (2 Unions) 29		23	1.26	Total 348		192	1.81																																																
Name of Upazila	No. of Notice Boards	No. of GC	No. of Notice Boards / GC																																																																											
Kalihati (11 Unions)	291 146		1.99																																																																											
Meherpur (2 Unions)	28 23		1.22																																																																											
Titas (2 Unions) 29		23	1.26																																																																											
Total 348		192	1.81																																																																											
			4. 掲示された情報数	● 掲示板は活用されていると言える。 ● 2007 年 10 月までの各ユニオンにおけるこれまでの掲示情報総数は以下のとおりである。単純に計算すれば 1 掲示板当たり平均 95 件、1 ヶ月当たり約 4 件の情報が掲示されていることになる。 <table><tr><th colspan="2" rowspan="2">Union Name Union</th><th colspan="6">Information put on Notice Board</th><th colspan="2" rowspan="2">GC Scheme</th><th colspan="2" rowspan="2">Others T otal</th></tr><tr><th>Agriculture</th><th>Health</th><th>F.P Livestock</th><th>Fishery</th><th></th><th></th></tr><tr><td>Balla 80</td><td></td><td></td><td>80</td><td>0</td><td>48</td><td>40</td><td>200</td><td>211</td><td>659</td></tr><tr><td>Bangra 560</td><td></td><td></td><td>1,243</td><td>1,278</td><td>191</td><td>147</td><td>520</td><td>136</td><td>4,075</td></tr><tr><td>Birbashinda 60</td><td></td><td></td><td>120</td><td>15</td><td>6</td><td>45</td><td>6</td><td>390</td><td>642</td></tr><tr><td>Durgapur</td><td>47</td><td></td><td>44</td><td>37</td><td>29</td><td>28</td><td>55</td><td>61</td><td>301</td></tr><tr><td>Ellenga 60</td><td></td><td></td><td>60</td><td>0</td><td>2</td><td>20</td><td>16</td><td>200</td><td>358</td></tr></table> (2007 年 10 月現在のデータ)							Union Name Union		Information put on Notice Board						GC Scheme		Others T otal		Agriculture	Health	F.P Livestock	Fishery			Balla 80			80	0	48	40	200	211	659	Bangra 560			1,243	1,278	191	147	520	136	4,075	Birbashinda 60			120	15	6	45	6	390	642	Durgapur	47		44	37	29	28	55	61	301	Ellenga 60			60	0	2	20	16	200	358
Union Name Union		Information put on Notice Board						GC Scheme		Others T otal																																																																				
		Agriculture	Health	F.P Livestock	Fishery																																																																									
Balla 80			80	0	48	40	200	211	659																																																																					
Bangra 560			1,243	1,278	191	147	520	136	4,075																																																																					
Birbashinda 60			120	15	6	45	6	390	642																																																																					
Durgapur	47		44	37	29	28	55	61	301																																																																					
Ellenga 60			60	0	2	20	16	200	358																																																																					

評価項目	評価設問		指標・判断基準	結果																																									
	大項目	小項目																																											
				Kokdahara 160		71	180	51	45	39	66	612																																	
				Nagbari 248		122	121	41	54	56	226	868																																	
				Narandia 480		720	360	191	184	106	600	2,641																																	
				Paikora I	16	232	0	64	64	260	1,030	1,766																																	
				Salla 299		104	114	53	106	51	329	1,056																																	
				Shahadebpur 298		330	281	46	155	85	544	1,739																																	
				KalihatiTotal Total	2,408	3,126	2,386	722	888	1,394	3,793	14,717																																	
				Kutubpur 94		82	113	26	45	62	62	422																																	
				Porojpur 91		72	122	66	46	48	48	445																																	
				Meherpur Total	185	154	235	92	91	110	110	867																																	
				Jagatpur 161		142	103	75	78	80	103	742																																	
				Ziarkandi 71		31	26	30	22	23	55	258																																	
				Titas Total	232	173	129	105	100	103	158	1,000																																	
				Grand total	5,650	6,906	5,500	1,838	2,158	2,994	8,122	33,168																																	
				(2007 年 10 月現在のデータ)																																									
			5. 研修を受けた UCCM の参加者数 (UP、NBDs、VC(=GC)、NGOs)	● 概ね 5 カ年計画及び研修ニーズに従って研修が実施されつつあり、これまでの研修参加者数は以下のとおりである。 ● NGO に対する研修コースは実施してされていないが、NGO の UCCM への参加者数は増加しており、研修の必要性はないとの判断がプロジェクト内でされている。 ● NBDs に関しては、対象 NBDs を絞り込んだ上で連携強化を図るための研修を検討中である。																																									
				<table><tr><th colspan="2">Training Course</th><th>Month, Year</th><th>No. of Participants</th><th>Achievement</th></tr><tr><td colspan="2" rowspan="2">1. Facilitation in Extension Service for NBDs</td><td>2006</td><td>80</td><td rowspan="2">40%</td></tr><tr><td>2007 18</td><td></td></tr><tr><td colspan="2">2. GC Representatives Skill up Training</td><td>2007</td><td>174</td><td>123%</td></tr><tr><td colspan="2">3. Study Visit to West Bengal (SIPRD)</td><td>Dec. 2006</td><td>UP Chairman and Secretary 6</td><td></td></tr><tr><td colspan="2">4. Study Visit to Sirajgonj Project</td><td>Mar. 2007</td><td>UP Chairman and Secretary 10</td><td></td></tr><tr><td colspan="2">5. Open Budget Training for UP chairman and Secretary (only Kalihati)</td><td>Jul. 2007</td><td>30</td><td></td></tr></table>									Training Course		Month, Year	No. of Participants	Achievement	1. Facilitation in Extension Service for NBDs		2006	80	40%	2007 18		2. GC Representatives Skill up Training		2007	174	123%	3. Study Visit to West Bengal (SIPRD)		Dec. 2006	UP Chairman and Secretary 6		4. Study Visit to Sirajgonj Project		Mar. 2007	UP Chairman and Secretary 10		5. Open Budget Training for UP chairman and Secretary (only Kalihati)		Jul. 2007	30		
Training Course		Month, Year	No. of Participants	Achievement																																									
1. Facilitation in Extension Service for NBDs		2006	80	40%																																									
		2007 18																																											
2. GC Representatives Skill up Training		2007	174	123%																																									
3. Study Visit to West Bengal (SIPRD)		Dec. 2006	UP Chairman and Secretary 6																																										
4. Study Visit to Sirajgonj Project		Mar. 2007	UP Chairman and Secretary 10																																										
5. Open Budget Training for UP chairman and Secretary (only Kalihati)		Jul. 2007	30																																										
			6. PRDP が UpDCC の議事録に記載される	(2007 年 10 月現在のデータ)																																									
				● カリハティ郡及びティタシユ郡の UpDCC では 2 回に 1 回の割合で PRDP2 が取り上げられており、郡レベルで PRDP2 が浸透しつつあることは える。メヘルプール郡では議題として取り上げられることは少なく、今後の課題である。																																									
				Upazila	議事録記載割合		内 容																																						

評価項目	評価設問		指標・判断基準	結果																																																																																	
	大項目	小項目																																																																																			
		成果 3「村落開発委員会（VC=GC）を中心として農村住民の開発プロセスへの参加を確保する仕組みが機能し、この仕組みを通じて住民の生活の質が向上する。」の達成度（見込み）		<table><tr><td>Kalihati 45%</td><td>(10/22) (1)</td><td>UCCM への NBD s 参加 起 (2)UCCM への UP メンバー参加 起 (3)GC/UCC スキーム</td></tr><tr><td>Meherpur 9%</td><td>(2/22) (1)</td><td>サニテーションスキーム (2)UCCM への NBD s 参加 起</td></tr><tr><td>ティタシユ</td><td>45% (10/22) (3)</td><td>UCCM への NBD s 参加 起 (4)UCCM への UP メンバー参加 起 (5)GC/UCC スキーム</td></tr></table> (議事録に掲載された回数/UpDCC が開催された回数)	Kalihati 45%	(10/22) (1)	UCCM への NBD s 参加 起 (2)UCCM への UP メンバー参加 起 (3)GC/UCC スキーム	Meherpur 9%	(2/22) (1)	サニテーションスキーム (2)UCCM への NBD s 参加 起	ティタシユ	45% (10/22) (3)	UCCM への NBD s 参加 起 (4)UCCM への UP メンバー参加 起 (5)GC/UCC スキーム																																																																								
Kalihati 45%	(10/22) (1)	UCCM への NBD s 参加 起 (2)UCCM への UP メンバー参加 起 (3)GC/UCC スキーム																																																																																			
Meherpur 9%	(2/22) (1)	サニテーションスキーム (2)UCCM への NBD s 参加 起																																																																																			
ティタシユ	45% (10/22) (3)	UCCM への NBD s 参加 起 (4)UCCM への UP メンバー参加 起 (5)GC/UCC スキーム																																																																																			
		1. 各ユニオンで VC(=GC) が <u>60%</u> の村で形成される		・ユニオンによりばらつきが大きい (24～129%) もの、2007 年 10 月までに平均で 52.5% の村で GC が形成されており、終了時までには目標を達成できる見込みである。(2008 年 1 月までに設立された GS 数は 213 である。) <table><tr><th>Union</th><th>No. of Villages</th><th>No. of GCs</th><th>%</th></tr><tr><td>Balla 12</td><td></td><td>12</td><td>100</td></tr><tr><td>Bangra 30</td><td></td><td>19</td><td>63</td></tr><tr><td>Birbashinda 33</td><td></td><td>11</td><td>33</td></tr><tr><td>Durgapur 29</td><td></td><td>9</td><td>31</td></tr><tr><td>Ellenga 37</td><td></td><td>9</td><td>24</td></tr><tr><td>Kokdahara 24</td><td></td><td>8</td><td>33</td></tr><tr><td>Nagbari 26</td><td></td><td>13</td><td>50</td></tr><tr><td>Narandia 43</td><td></td><td>21</td><td>49</td></tr><tr><td>Paikora 21</td><td></td><td>12</td><td>57</td></tr><tr><td>Salla 22</td><td></td><td>16</td><td>73</td></tr><tr><td>Shahadebpur 22</td><td></td><td>16</td><td>73</td></tr><tr><td>Kalihati Total</td><td>299</td><td>146</td><td>49</td></tr><tr><td>Kutubpur 22</td><td></td><td>13</td><td>59</td></tr><tr><td>Porojpur 23</td><td></td><td>10</td><td>43</td></tr><tr><td>Meherpur Total</td><td>45</td><td>23</td><td>51</td></tr><tr><td>Jagatpur 22</td><td></td><td>14</td><td>64</td></tr><tr><td>Ziarkandi 7</td><td></td><td>9</td><td>129</td></tr><tr><td>Titas Total</td><td>29</td><td>23</td><td>79</td></tr><tr><td>Grand total</td><td>373</td><td>192</td><td>52.5</td></tr></table> (注) 192 にはフェーズ 1 からの継続 GC 59 を含む。	Union	No. of Villages	No. of GCs	%	Balla 12		12	100	Bangra 30		19	63	Birbashinda 33		11	33	Durgapur 29		9	31	Ellenga 37		9	24	Kokdahara 24		8	33	Nagbari 26		13	50	Narandia 43		21	49	Paikora 21		12	57	Salla 22		16	73	Shahadebpur 22		16	73	Kalihati Total	299	146	49	Kutubpur 22		13	59	Porojpur 23		10	43	Meherpur Total	45	23	51	Jagatpur 22		14	64	Ziarkandi 7		9	129	Titas Total	29	23	79	Grand total	373	192	52.5	
Union	No. of Villages	No. of GCs	%																																																																																		
Balla 12		12	100																																																																																		
Bangra 30		19	63																																																																																		
Birbashinda 33		11	33																																																																																		
Durgapur 29		9	31																																																																																		
Ellenga 37		9	24																																																																																		
Kokdahara 24		8	33																																																																																		
Nagbari 26		13	50																																																																																		
Narandia 43		21	49																																																																																		
Paikora 21		12	57																																																																																		
Salla 22		16	73																																																																																		
Shahadebpur 22		16	73																																																																																		
Kalihati Total	299	146	49																																																																																		
Kutubpur 22		13	59																																																																																		
Porojpur 23		10	43																																																																																		
Meherpur Total	45	23	51																																																																																		
Jagatpur 22		14	64																																																																																		
Ziarkandi 7		9	129																																																																																		
Titas Total	29	23	79																																																																																		
Grand total	373	192	52.5																																																																																		
		2. 開催された VCM(=GCM)数		・GCM は通常毎月開催されることになっているので、GCM の開催数の毎月開催された場合の開催数に対する割合で、GC の活動度が推測できると考えられる。 ・2007 年 9 月・10 月の GC 数に対する GCM 開催数の割合は Kalihati 郡で平均 68%及び 69%、メヘルプール郡で 100%及び 87%、ティタシユ郡で 74%及び 100%であり、全体の平均は 71%及び 75%となる。(ただし、1 カ月に複数回開催した数もあるので 密で																																																																																	

評価項目	評価設問		指標・判断基準	結果																																																																																																																																																
	大項目	小項目																																																																																																																																																		
			指標・判断基準	結果																																																																																																																																																
			（はない。） ・ これまでに得られた知見から GCM 開催率は 70% が 留まりと考えられ、満足できるものである。																																																																																																																																																	
				<table><tr><th rowspan="2">Name of Union</th><th rowspan="2">No. of GC</th><th colspan="4">No. of GCM & %</th></tr><tr><th>Jan.2006 - Oct. 2007</th><th>Sep. 2007</th><th>Oct. 2007</th><th></th></tr><tr><td>Balla 12</td><td></td><td>72</td><td>10</td><td>83%</td><td>9</td><td>75%</td></tr><tr><td>Bangra 19</td><td></td><td>198</td><td>8</td><td>42%</td><td>11</td><td>58%</td></tr><tr><td>Birbashinda 1</td><td>1</td><td>87</td><td>6</td><td>55%</td><td>5</td><td>45%</td></tr><tr><td>Durgapur 9</td><td></td><td>105</td><td>9</td><td>100%</td><td>9</td><td>100%</td></tr><tr><td>Ellenga 9</td><td></td><td>99</td><td>6</td><td>67%</td><td>6</td><td>67%</td></tr><tr><td>Kokdahara 8</td><td></td><td>75</td><td>5</td><td>63%</td><td>4</td><td>50%</td></tr><tr><td>Nagbari 13</td><td></td><td>135</td><td>11</td><td>85%</td><td>9</td><td>69%</td></tr><tr><td>Narandia 21</td><td></td><td>121</td><td>11</td><td>52%</td><td>14</td><td>67%</td></tr><tr><td>Paikora 12</td><td></td><td>126</td><td>8</td><td>67%</td><td>7</td><td>58%</td></tr><tr><td>Salla 16</td><td></td><td>247</td><td>14</td><td>88%</td><td>15</td><td>94%</td></tr><tr><td>Shahadebpur 16</td><td></td><td>155</td><td>12</td><td>75%</td><td>12</td><td>75%</td></tr><tr><td>Kalihati Total</td><td>146</td><td>1,420</td><td>100</td><td>68%</td><td>101</td><td>69%</td></tr><tr><td>Kutubpur 13</td><td></td><td>154</td><td>13</td><td>100%</td><td>14</td><td>108%</td></tr><tr><td>Porojpur 10</td><td></td><td>117</td><td>10</td><td>100%</td><td>6</td><td>60%</td></tr><tr><td>Meherpur Total</td><td>23</td><td>271</td><td>23</td><td>100%</td><td>20</td><td>87%</td></tr><tr><td>Jagatpur 14</td><td></td><td>200</td><td>11</td><td>79%</td><td>16</td><td>114%</td></tr><tr><td>Ziarkandi 9</td><td></td><td>88</td><td>6</td><td>67%</td><td>8</td><td>89%</td></tr><tr><td>Titas Total</td><td>23</td><td>288</td><td>17</td><td>74%</td><td>23</td><td>100%</td></tr><tr><td>Grand total</td><td>192</td><td>1,979</td><td>136</td><td>71%</td><td>144</td><td>75%</td></tr></table>	Name of Union	No. of GC	No. of GCM & %				Jan.2006 - Oct. 2007	Sep. 2007	Oct. 2007		Balla 12		72	10	83%	9	75%	Bangra 19		198	8	42%	11	58%	Birbashinda 1	1	87	6	55%	5	45%	Durgapur 9		105	9	100%	9	100%	Ellenga 9		99	6	67%	6	67%	Kokdahara 8		75	5	63%	4	50%	Nagbari 13		135	11	85%	9	69%	Narandia 21		121	11	52%	14	67%	Paikora 12		126	8	67%	7	58%	Salla 16		247	14	88%	15	94%	Shahadebpur 16		155	12	75%	12	75%	Kalihati Total	146	1,420	100	68%	101	69%	Kutubpur 13		154	13	100%	14	108%	Porojpur 10		117	10	100%	6	60%	Meherpur Total	23	271	23	100%	20	87%	Jagatpur 14		200	11	79%	16	114%	Ziarkandi 9		88	6	67%	8	89%	Titas Total	23	288	17	74%	23	100%	Grand total	192	1,979	136	71%	144	75%	
Name of Union	No. of GC	No. of GCM & %																																																																																																																																																		
		Jan.2006 - Oct. 2007	Sep. 2007	Oct. 2007																																																																																																																																																
Balla 12		72	10	83%	9	75%																																																																																																																																														
Bangra 19		198	8	42%	11	58%																																																																																																																																														
Birbashinda 1	1	87	6	55%	5	45%																																																																																																																																														
Durgapur 9		105	9	100%	9	100%																																																																																																																																														
Ellenga 9		99	6	67%	6	67%																																																																																																																																														
Kokdahara 8		75	5	63%	4	50%																																																																																																																																														
Nagbari 13		135	11	85%	9	69%																																																																																																																																														
Narandia 21		121	11	52%	14	67%																																																																																																																																														
Paikora 12		126	8	67%	7	58%																																																																																																																																														
Salla 16		247	14	88%	15	94%																																																																																																																																														
Shahadebpur 16		155	12	75%	12	75%																																																																																																																																														
Kalihati Total	146	1,420	100	68%	101	69%																																																																																																																																														
Kutubpur 13		154	13	100%	14	108%																																																																																																																																														
Porojpur 10		117	10	100%	6	60%																																																																																																																																														
Meherpur Total	23	271	23	100%	20	87%																																																																																																																																														
Jagatpur 14		200	11	79%	16	114%																																																																																																																																														
Ziarkandi 9		88	6	67%	8	89%																																																																																																																																														
Titas Total	23	288	17	74%	23	100%																																																																																																																																														
Grand total	192	1,979	136	71%	144	75%																																																																																																																																														
		3. 形成された女性部会数	・ 2008 年 1 月までに形成された MD 総数は GC 設置数 213 に対して 100 であり、ユニオン当りの形成数は平均 6.7 である。 ・ ジェンダー配慮の観点から、MD は女性の声を吸い上げるシステム、サービスの受け皿として形成されている。ただし、プロジェクトではすべての GC で MD を形成することを目標としているわけではない。現時点で、UDO/O をはじめとするスタッフが多数の MD をフォローすることは難しく、プロジェクトでは MD 数に拘るのではなく、必要に応じて活性化し女性の声が GC に反映されるよう図り、優れた MD の活動事例を集めて他の MD や農村女性のモデルとして提示していくことを目指している。																																																																																																																																																	
		4. UCCM に提出された GC スキーム計画書数	・ 2007 年 10 月までに UCCM に提出された GC スキーム提案数は以下のとおりである。GC スキーム提案数は増加している。しかし一方でスキームの受け皿として GC が結成され、スキームの実施完了でその活動停止する GC も散見されている。	<table><tr><th rowspan="2">Name of Union</th><th rowspan="2">No. of GC (Oct. 2007)</th><th colspan="2">Jul.2005 - Jun.2006</th><th colspan="2">Jul.2006 - Jun.2007</th><th colspan="2">Jul.2007 - Oct. 2007</th><th rowspan="2">Total</th></tr><tr><th>14</th><th>16</th><th>84</th><th>170</th><th>5</th><th>103</th></tr><tr><td>Kalihati 146</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>Meherpur</td><td>23</td><td></td><td></td><td></td><td>33</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>Titas</td><td>23</td><td></td><td></td><td></td><td>22</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>Total 192</td><td></td><td>40</td><td></td><td>113</td><td>518</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>	Name of Union	No. of GC (Oct. 2007)	Jul.2005 - Jun.2006		Jul.2006 - Jun.2007		Jul.2007 - Oct. 2007		Total	14	16	84	170	5	103	Kalihati 146									Meherpur	23				33				Titas	23				22				Total 192		40		113	518																																																																																																
Name of Union	No. of GC (Oct. 2007)	Jul.2005 - Jun.2006		Jul.2006 - Jun.2007			Jul.2007 - Oct. 2007		Total																																																																																																																																											
		14	16	84	170	5	103																																																																																																																																													
Kalihati 146																																																																																																																																																				
Meherpur	23				33																																																																																																																																															
Titas	23				22																																																																																																																																															
Total 192		40		113	518																																																																																																																																															

評価項目	評価設問		指標・判断基準	結 果																																																																															
	大項目	小項目																																																																																	
			5. 実施された VC(=GC)スキーム数	● 上記に同じ。																																																																															
			6. GCM に参加した各省普及員 (NBDs) 数	● 2008 年 1 月までの GCM の NBDs 参加者総数 2,991 名で、GCM 1 回当たり平均 0.85 名である。 ● 下表は 2007 年 10 月までのユニオン別の参加者数である。現状では 1 ユニオン当りに配置されている NBDs 数は限られており、GC 数が増加するにつれてすべての GCM への参加は困難となっている中では受容できる数値であると考えられる。プロジェクトは今後の数値目標を 1 GCM 当り 1 名の NBDs の参加を目指している。 <table><tr><th>Name of Union</th><th>No. of NBDs attended</th><th>No. of GCM held</th><th>Average Attendance of NBDs per GCM</th></tr><tr><td>Balla 50</td><td></td><td>72</td><td>0.69</td></tr><tr><td>Bangra 82</td><td></td><td>198</td><td>0.41</td></tr><tr><td>Birbashinda 44</td><td></td><td>87</td><td>0.51</td></tr><tr><td>Durgapur 67</td><td></td><td>105</td><td>0.64</td></tr><tr><td>Ellenga 59</td><td></td><td>99</td><td>0.60</td></tr><tr><td>Kokdahara 48</td><td></td><td>75</td><td>0.64</td></tr><tr><td>Nagbari 42</td><td></td><td>135</td><td>0.31</td></tr><tr><td>Narandia 93</td><td></td><td>121</td><td>0.77</td></tr><tr><td>Paikora 93</td><td></td><td>126</td><td>0.74</td></tr><tr><td>Salla 139</td><td></td><td>247</td><td>0.56</td></tr><tr><td>Shahadebpur 110</td><td></td><td>155</td><td>0.71</td></tr><tr><td>Kalihati Total</td><td>827</td><td>1,420</td><td>0.58</td></tr><tr><td>Kutubpur 74</td><td></td><td>154</td><td>0.48</td></tr><tr><td>Porojpur 34</td><td></td><td>117</td><td>0.29</td></tr><tr><td>Meherpur Total</td><td>108</td><td>271</td><td>0.40</td></tr><tr><td>Jagatpur 299</td><td></td><td>200</td><td>1.50</td></tr><tr><td>Ziarkandi 115</td><td></td><td>88</td><td>1.31</td></tr><tr><td>Titas Total</td><td>414</td><td>288</td><td>1.44</td></tr><tr><td>Grand total</td><td>1,349</td><td>1,979</td><td>0.68</td></tr></table>	Name of Union	No. of NBDs attended	No. of GCM held	Average Attendance of NBDs per GCM	Balla 50		72	0.69	Bangra 82		198	0.41	Birbashinda 44		87	0.51	Durgapur 67		105	0.64	Ellenga 59		99	0.60	Kokdahara 48		75	0.64	Nagbari 42		135	0.31	Narandia 93		121	0.77	Paikora 93		126	0.74	Salla 139		247	0.56	Shahadebpur 110		155	0.71	Kalihati Total	827	1,420	0.58	Kutubpur 74		154	0.48	Porojpur 34		117	0.29	Meherpur Total	108	271	0.40	Jagatpur 299		200	1.50	Ziarkandi 115		88	1.31	Titas Total	414	288	1.44	Grand total	1,349	1,979
Name of Union	No. of NBDs attended	No. of GCM held	Average Attendance of NBDs per GCM																																																																																
Balla 50		72	0.69																																																																																
Bangra 82		198	0.41																																																																																
Birbashinda 44		87	0.51																																																																																
Durgapur 67		105	0.64																																																																																
Ellenga 59		99	0.60																																																																																
Kokdahara 48		75	0.64																																																																																
Nagbari 42		135	0.31																																																																																
Narandia 93		121	0.77																																																																																
Paikora 93		126	0.74																																																																																
Salla 139		247	0.56																																																																																
Shahadebpur 110		155	0.71																																																																																
Kalihati Total	827	1,420	0.58																																																																																
Kutubpur 74		154	0.48																																																																																
Porojpur 34		117	0.29																																																																																
Meherpur Total	108	271	0.40																																																																																
Jagatpur 299		200	1.50																																																																																
Ziarkandi 115		88	1.31																																																																																
Titas Total	414	288	1.44																																																																																
Grand total	1,349	1,979	0.68																																																																																
		7. GC の 80% がトレーニングを受ける	● 指標は達成されつつあり、プロジェクト終了時には達成される見込みである。 ● 2007 年 10 月までに 192 の GC が設立され (フェーズ 1 からの継続 GC を含む)、うち 45 (23%) の GC 代表者の研修を終了した (2007 年 7 月、8 月、9 月にそれぞれ 10、20、15 の GC)。 ● 今後研修の度を高め、2008 年 3 月までに 100GC、2009 年 3 月までに 200GC に対する研修が行なわれる予定である。今後 GC 数が増加してもプロジェクト終了前 (2010 年 3 月) には 300GC に対する研修が実施できる計画となっている。																																																																																
	成果 4 「リンクモデルの実施体制が BRDB において強化される。」の達成度 (見込み)	1. Dist.DD、URDO、ARDO が UCCM に出席した回数	● 左記指標の数値目標は示されていないが、中間評価時点ではリンクモデル、PRDP2 を県、郡の BRDB 職員に理解させるという最低の目的は達せられたと考えられる。 ● リンクモデルは将来 BRDB の本来業務として実施していくことが期待されている。県及び郡の BRDB 職員が現場に参加することによりリンクモデルを理解し、プロジェクト終了後の運営管理をできるようにすることは重要である。プロジェクトでは、プロジェクト後半の DD、URDO、ARDO の UCCM への参加率の向上を図り、DD20%、																																																																																

評価項目	評価設問		指標・判断基準	結 果																								
	大項目	小項目																										
実績（続き）			URDO30%、ARDO40%、専任であるカリハティ郡の ARDO の場合は 50%以上を目安とすることを考えている。 <table><tr><th colspan="4">Name of Union</th></tr><tr><th>District</th><th>DD</th><th>URDO</th><th>ARDO</th></tr><tr><td>Kalihati</td><td>1.1% (3/261)</td><td>11.1% (29/261)</td><td>29.5% (77/261)</td></tr><tr><td>Meherpur</td><td>18.2% (8/44)</td><td>40.9% (18/44)</td><td>6.8% (3/44)</td></tr><tr><td>Titas</td><td>2.1% (1/48)</td><td>50.0% (24/48)</td><td>0% (0/44)</td></tr><tr><td>Total</td><td>3.4%(12/353)</td><td>20.1% (71/353)</td><td>22.7% (80/353)</td></tr></table>	Name of Union				District	DD	URDO	ARDO	Kalihati	1.1% (3/261)	11.1% (29/261)	29.5% (77/261)	Meherpur	18.2% (8/44)	40.9% (18/44)	6.8% (3/44)	Titas	2.1% (1/48)	50.0% (24/48)	0% (0/44)	Total	3.4%(12/353)	20.1% (71/353)	22.7% (80/353)	
	Name of Union																											
	District	DD	URDO	ARDO																								
	Kalihati	1.1% (3/261)	11.1% (29/261)	29.5% (77/261)																								
	Meherpur	18.2% (8/44)	40.9% (18/44)	6.8% (3/44)																								
	Titas	2.1% (1/48)	50.0% (24/48)	0% (0/44)																								
Total	3.4%(12/353)	20.1% (71/353)	22.7% (80/353)																									
	2. LMC に提出されたリンクモデルに関する Dist.DD の報告書数	中間評価時点では郡の担当 URDO から県の DD を通さず、直接 LMC にプロジェクト進捗に関する月例報告書が提出されており、県 DD から報告書は提出されていない。																										
	3. 開催された会議数	- リンクモデル実施体制強化のため、下記のとおり各種会議が開催された。 (1) スタディ・フォーラム： 4 回 (2006 年 4 月～2007 年 8 月) (2) 週例会議： 原則週 1 回 (LMC、各郡事務所) (3) 四半期会議： 四半期ごと (LMC) (4) PRAC (リンクモデルの他地域への拡大会議)： 1 回 (2007 年 11 月) (5) JCC： 1 回 (2006 年 4 月) - 実施レベルでは上記 1)～3) の会議が、政策レベルでは 4) が開催されている。ただし、JCC は 1 度しか開催されておらず、政策レベルの会議で PRDP が議論される機会は少なかつた。																										
	4. ホームページの開設	- プロジェクトのホームページ (http://www.prdp2.org) が開設され、2007 年 5 月までは毎月更新されていたが、現在見直し中である。2008 年に再開される予定である。 - 管理は MC がおこなっており、BRBD ホームページ (http://www.brdp.gov.bd) とリンクされている。																										
	5. 実施されたセミナー数	- 左記指標の数値目標は示されていないが、以下のようなセミナー・会議が開催され、リンクモデルを紹介・広報するという目的については BRDB 内及び郡レベルで一定の成果をあげている。しかし県レベル及び本省レベルの JCC については回数が少なく、外部関係者に広く PRDP を周知する機会は必ずしも多くない。 (1) ナショナルセミナー：2 回 (2) JCC：1 回 (3) 県レベル JCC：1 回 (Tangail 県) (4) 郡レベル JCC：3 回 (Kalihati 郡)																										
	6. リンクモデルセルによって作られたアクションプラン	- また、他の総合農村開発プロジェクト (LGSP、LDCP、CVDP) との連携を検討する目的で、相互訪問・公開セミナー・連絡会議が実施されている。 - リンクモデル普及体制の強化のために、プロジェクト後半にはプロジェクトの対象 3 郡でリンクモデルを郡行政に統合するためのセミナーの開催が計画されている。 - LMC は PRDP2 のプロジェクト事務所で、BRDB のリンクモデル普及に関する行動計画は策定していない。																										

評価項目	評価設問		指標・判断基準	結 果																																								
	大項目	小項目																																										
		成果 5「リンクモデル普及のための人材育成の体制が確立される。」の達成度（見込み）	7. UCC 設立の官報	- プロジェクト対象地以外で UCC は設立されておらず、Gazette Notification は発行されていない。 - BRDB が本来業務としてリンクモデルを開始するためには UCCM 設立が必要であり、官報（Gazette Notification）の発行は行われなければならない。 - LMC は BRDB 下の PRDP2 のプロジェクト事務所、BRDB 組織図に位置付けられていない。																																								
			8. リンクモデルセルが BRDB 組織図に位置づけられる																																									
			9. リンクモデルの認知度が向上する	- リンクモデルの理解・認識に関するアンケート調査は行なわれていない。 - 今後 BRDB 本部、地方事務所の URDO の職員に対し、PRDP 及びリンクモデルに関する理解・認識度についてのベースライン・サーベイを行う予定である。(本指標は適切ではない)。																																								
			1. 整備された研修施設	タンガイル県タンガイル市の女性研修センター（WTI）が改修され、2006 年からリンクモデル研修センター（LMTC）として活用されている。施設は事務室、講義室（1 室）及びホステル（20 名宿泊可能）から成り、プロジェクトの人材育成の中心として機能している。																																								
			2. 作成された研修計画	5 カ年研修計画が策定され（2006 年 2 月）、さらに改定（2006 年 10 月）されている。																																								
			3. リクルートされた講師数	左記指標の数値目標は示されていないが、研修講師は確保され、講師の確保にかかわる大きな問題はなく研修が実施されている。2007 年 10 月までの外部からの講師数は以下のとおりである。 <table><tr><th>研修名</th><th>実施年月</th><th>講師数</th><th>配属先</th></tr><tr><td>新規雇用職員研修 2005</td><td>年 10 月</td><td>7 名</td><td>郡 NBDs 職員</td></tr><tr><td>UDO/O スキルアップ 2006</td><td>年 7 月</td><td>1 名 SSS*</td><td></td></tr><tr><td>UDO/O スキルアップ 2006</td><td>年 8 月</td><td>1 名 BAU**</td><td></td></tr><tr><td>ジェンダーと開発 2006</td><td>年 9 月</td><td>2 名 BAU</td><td></td></tr><tr><td>NBDs 研修 2006</td><td>年 11 月～2007 年 10 月</td><td>16 名/8 回 BAU</td><td></td></tr><tr><td>新規雇用職員研修 2007</td><td>年 6 月</td><td>5 名</td><td>郡 NBDs 職員</td></tr><tr><td>生活改善研修 2007</td><td>年 1 月～7 月 28</td><td>名/4 回</td><td>郡 NBDs 職員</td></tr><tr><td>現場提案型各技術研修</td><td>2006 年 7 月～2007 年 10 月 23</td><td>名/23 回</td><td>郡 NBDs 職員</td></tr><tr><td colspan="2">合計 83</td><td></td><td>名</td></tr></table> (*SSS : Society for Social Services (NGO) **BAU : Bangladesh Agriculture University)	研修名	実施年月	講師数	配属先	新規雇用職員研修 2005	年 10 月	7 名	郡 NBDs 職員	UDO/O スキルアップ 2006	年 7 月	1 名 SSS*		UDO/O スキルアップ 2006	年 8 月	1 名 BAU**		ジェンダーと開発 2006	年 9 月	2 名 BAU		NBDs 研修 2006	年 11 月～2007 年 10 月	16 名/8 回 BAU		新規雇用職員研修 2007	年 6 月	5 名	郡 NBDs 職員	生活改善研修 2007	年 1 月～7 月 28	名/4 回	郡 NBDs 職員	現場提案型各技術研修	2006 年 7 月～2007 年 10 月 23	名/23 回	郡 NBDs 職員	合計 83			名
研修名	実施年月	講師数	配属先																																									
新規雇用職員研修 2005	年 10 月	7 名	郡 NBDs 職員																																									
UDO/O スキルアップ 2006	年 7 月	1 名 SSS*																																										
UDO/O スキルアップ 2006	年 8 月	1 名 BAU**																																										
ジェンダーと開発 2006	年 9 月	2 名 BAU																																										
NBDs 研修 2006	年 11 月～2007 年 10 月	16 名/8 回 BAU																																										
新規雇用職員研修 2007	年 6 月	5 名	郡 NBDs 職員																																									
生活改善研修 2007	年 1 月～7 月 28	名/4 回	郡 NBDs 職員																																									
現場提案型各技術研修	2006 年 7 月～2007 年 10 月 23	名/23 回	郡 NBDs 職員																																									
合計 83			名																																									
			4. 作成された研修カリキュラム数	2006 年 2 月に 16 の研修カリキュラムが策定されている。その後、これらは(1)LMTC で実施するレギュラー型、(2)視察研修型、(39 住民からの要望を受けたファミリード型の 3 タイプの研修に分類、整理されている。 - プロジェクトではプロジェクト後半は、LMTC はレギュラー型研修に業務を集中、ファミリード型研修は UCC 主導型の研修として、LMTC から徐々に引き継ぐ方針を立てている。 - LMTC-DD、AD とも、UCCM、GCM への参加は少ない。状況は改善しつつある。																																								
			5. DD、AD (T raining) が UCCM と GCM に出席した回数																																									

評価項目	評価設問		指標・判断基準	結 果																
	大項目	小項目																		
投入実績	投入実績 (バングラデシュ)		具体的投入内容と数値 (計画値との比較)	概ね計画通りの投入が実施されている。ただし、現時点でも研修管理専門家の技術移転対象となる C/P が配置されていない。 (1) C/P の分野・数と配置状況 各 JICA 専門家に対して C/P が配置されている。 <table border="1"><tr><td>JICA expert</td><td>カウンタートバート</td></tr><tr><td>チーフアドバイザー</td><td>BRDB-DG</td></tr><tr><td>調整員</td><td>Project Director</td></tr><tr><td>農村開発</td><td>カリハティ URDO</td></tr><tr><td>ティタス URDO</td><td></td></tr><tr><td>メヘルプール URDO</td><td></td></tr><tr><td>研修管理 LMTC</td><td>-DD</td></tr><tr><td></td><td>LMTC-AD</td></tr></table> (2) プロジェクト運営経費 GC スキーム資金（ティタシユ郡・メヘルプール郡）を含む必要運営経費が負担されている。 (3) プロジェクト事務所の提供 プロジェクト事務所（LMC）、フィールド事務所及び研修センター（LMTC）が提供されている。	JICA expert	カウンタートバート	チーフアドバイザー	BRDB-DG	調整員	Project Director	農村開発	カリハティ URDO	ティタス URDO		メヘルプール URDO		研修管理 LMTC	-DD		LMTC-AD
		JICA expert	カウンタートバート																	
チーフアドバイザー	BRDB-DG																			
調整員	Project Director																			
農村開発	カリハティ URDO																			
ティタス URDO																				
メヘルプール URDO																				
研修管理 LMTC	-DD																			
	LMTC-AD																			
投入実績 (日本)			具体的投入内容と数値 (計画値との比較)	(1) 長期・短期専門家の数・専門分野・派遣期間 長期専門家 5 名及び短期専門家 9 名が派遣されている。 (2) 供与資機材 必要な資機材が供与された。 (3) 受入れ研修員の数と分野 2005 年度に 6 人の C/P を受け入れた。2007 年度に 2 名の C/P を受け入れる予定である。 また 2006 年度及び 2007 年度に計 49 名のプロジェクト関係者がインドでの技術交換研修に参加した。 (4) 運営経費等 カリハティ郡の GC スキーム資金を含む必要運営経費が負担されている。 ●活動は全体的に見れば概ね計画通りに進捗しており、PO との比較、関係者からの聞き取りでも概ね計画通りであると考えられ、成果達成に影響するような重大な遅滞は生じていない。現時点において、プロジェクト終了時には成果は達成されると見込まれる。（ただし、適切な研修管理専門家の C/P が配置された場合）。 ●NBDs との連携： 郡レベルにおける連携は十分とは言えず、これから重点をおいて実施する活動のひとつである。プロジェクト（前半）は主としてユニオンレベル以下でリンクモデルを機能させることに専念してきた（当初予想したよりは多くの時間と活動が必要であった）。したがって、郡レベルの MBDS 連携についてはまだ不十分なところがある。これが成果達成を外すとは見込まれない。																
	活動の進捗・実施状況	活動は計画どおり実施されているか 十分に実施されていない活動はあるか	活動の計画と進捗状況の 確認・比較 成果達成・自立発展性へ及ぼす影響 活動の計画と進捗状況の 確認・比較 成果達成・自立発展性へ及ぼす影響																	

評価項目	評価設問		指標・判断基準	結 果
	大項目	小項目		
		活動の実施過程で生じた（ている）問題はるか	問題による活動への影響 成果達成・自立発展性へ及ぼす影響	• UDO/Oの離職：計画にない補充と研修が必要となり、そのために予定された他の研修が遅れたり、新規雇用者に十分な日数を確保できない研修が生じたりした。 • UP 議長のリリンクモデルに対する理解の不足は、プロジェクト初期における UCCM 運営に障害となった。 • UP 議長と UP メンバーの連携の不足も（プロジェクト初期における）UCCM 運営に障害となった。 • NBDs の GC、MD 及び UCCM への協力が容易に得られなかったことも、（プロジェクト初期における）活動推進の問題であった。 • TAPP 数値目標：TAPP の数値目標が重 となり、GC や MD 活動や UCCM の質の確保がおろそかになりがちである。 • 研修管理センター：技術移転対象となるスタッフがいらない。自立発展性に影響を及ぼすと考えられる。
		JOCV 隊員活動の位置づけ	（投入計画・PO には記載がない） 活動の進捗への影響	これらの問題はプロジェクト・チーム、BRDB、プロジェクト関係者により対処されており、成果達成に影響を及ぼすような重大な問題とはならない
		プロジェクトスタッフの位置づけ	（投入計画・PO には記載がない） 活動の進捗への影響	• JOCV は現場で、GCM や UCCM に参加したり、設置された GC や MD と村落活動を実施したり、UCCM を JOCV 活動のプラットフォームとして活用するなど、プロジェクト活動の推進に貢献している。 • また現場の村落レベルの情報の提供者として機能している側面もある。
		モニタリングはどのように実施されたか	モニタリングが機能しているか 問題に適切に対応されているか	• 多くの経験 ないインスタラクター、リサーチ・オフィサー及びリサーチ・アソシエイトがプロジェクト・スタッフとして雇用されている。これらスタッフはサーベイ、データ収集、GC スキーマ計画策定、村落住民のファシリテーション、研修及び UDO/O の監督指導において支援活動を実施しており、プロジェクト活動の促進要因となっている。 • プロジェクト管理・モニタリングのシステムはほぼ構築され、機能している。 • プロジェクト事務所（LMC）、3ヶ所のフィールド事務所及び研修センター（LMTC）の5つの各事務所で開催が実施されており、さらに四半期全体会議が LMC で行われている。プロジェクトの進捗及び問題点が話し合わせ、フィードバックされている。また、解決すべき問題が共有され、適切な対処のための協議が行われている。
		関係機関（JICA 本部・パ 事務所、国内支援委員会 等）の支援機能は適切であ ったか	プロジェクト実施中の問 題に対する対応や助言は 迅速で適切だったか	• 2006 年 4 月及び 2007 年 9 月に運営指導調査団が 2 回派遣されている。調査団による指導・助言及びババ側との協議はプロジェクトにとって有意義で適切なものであった。 • JICA バングラー事務所はプロジェクトの必要に応じて適切に対応した。
BRDB 及び C/P のプロジェクトに対する認識は高いか		外部条件の変化に対する 対応	外部条件に変化はあった か。 あった場合の対処法	• UDO/O の定着は外部条件として PDM に記載されている。人材のやりくり（オーガナイザーの UDO への配置換えや BRDB 職員の 用など）及び新規雇用で対処し、活動の進捗に しい遅滞を生じるには至っていないと考えられる。 • 今後選 が実施された場合、その前後ではプロジェクト活動に影響が生じる可能性があ る。
			プロジェクトの上位目標、 プロジェクト目標、成果及 び活動計画は関係者に理 解され、共有されていたか	• JICA 専門家は PDM を十分に理解している。一方、C/P は PDM は知っているものの、バ バ側にとっては TAPP が PDM に代わる基本文書との位置づけであり、これにしたがって活 動している。

評価項目	評価設問		指標・判断基準	結果
	大項目	小項目		
	その他、プロジェクトの実施過程で生じている問題はあるか		実施機関及び C/P のプロジェクトへの参加度は高いか	ほとんどの C/P の参加度は高い。プロジェクト後半は将来の BRDB 自身によるリンクモデル拡大のために C/P の一層の参加と C/P への技術移転が必要である。
			- 問題による活動への把握 - 問題の要因	活動の進捗に影響を及ぼすような重大な問題はない。

評価グリッド（評価5項目結果表）

評価5項目	評価設問		判断基準・方法	結果
	大項目	小項目		
妥当性	上位目標やプロジェクト目標は対象地域・社会のニーズに合致していたか、しているか	リンクモデルによる社会サービスの普及が住民のニーズと一致していたか、しているか	リンクモデルに対する関係者及び地域住民の評価	- 村落住民と地方行政機関のニーズは高い。バングラデシュの村落では縦割り行政と行政資源の不足のために村落住民が必要なサービスを受けられない状況にある。したがって、村落住民とNBDs（種々の行政サービス提供機関及びその普及員）を結びつけるシステムを導入・構築することは現時点でも適切である。 - リンクモデルは現時点で、本プロジェクト対象地域のユニオンレベル及び郡レベルのすべての関係者から受け入れられ、評価されつつある。
	プロジェクト目標はバングラデシュの国家開発計画・農村開発政策に合致していたか、現在の政策・計画と合致しているか	リンクモデルの実施・普及による農村開発がバングラデシュの農村開発計画に合致しているか	国家開発計画（政策）や貧困削減戦略等との整合性（当該分野の重要性、優先性）	- 事前評価調査の時点から国家開発戦略・貧困削減戦略等の内容に大きな変化はなく、農村開発は重点分野のひとつである。本プロジェクトは地方村落住民と地方行政機関の両者の結びつける仕組みを構築することにより双方がエンパワメントされるもので、貧困層の開発へのアプローチとしても合致するものである。 「地方の統治（Local governance）」の強化が主流となりつつあるが、本プロジェクトの仕組みはこれを達成するための土台（プラットフォーム）となりうるものである。ただし、同じユニオンレベルでの介入であり、重複する面などの調整・連携の可能性について今後検討する必要がある。
	日本の援助政策やJICA事業計画に合致していたか、いるか	プロジェクト目標、上位目標は日本の援助事業やJICAのバングラデシュ事業実施計画に合致しているか	日本の援助事業や事業実施計画との整合性	事前評価調査の時点から日本及びJICAのバングラデシュに対する援助政策に大きな変化はなく、引き続き「人間の安全保障」が援助のであり、「農村・農村開発と生産性向上」が援助の重点分野のひとつである。
	プロジェクトは開発課題に対する効果をあげる戦略として適切であったか、あるか？	プロジェクト目標の達成は上位目標の達成に貢献するか 成果はどれもプロジェクト目標を達成するための手段であるか	因果関係の論理性 外部条件は正しいか。外部条件の影響があるか 因果関係の論理性	- 因果関係は正しいが、農村開発のような分野では新しいシステムの全国レベルの普及は5年程度では難しいと判断される。 - 外部条件は正しい。 因果関係の論理性はほぼ妥当である。
	ターゲット・グループの選定は妥当であったか	プロジェクト目標の指標は適切か 対象地域（3県16ユニオン）はモデル地区として適切であったか	指標値の根拠の妥当性 選択の適切さ（ニーズ、受け入れやすさ、規模、公平性、課題の大きさ等） （現在の）問題の有無 活動の中に女性への配慮、女性のエンパワメントが配慮されているか ノウハウが蓄積されているか	- 村落住民の便益に関する指標を加える必要がある。 - その他の指標についても改定を検討する必要がある。 フェーズ1の結果に基づきカリハティ郡が選定され、さらに当時バ側がパイロットを実施していた地域とその隣のユニオンが選定されており、適切であると考えられる。
	日本の技術の優位性はあるか	女性に対する配慮（ジェンダー配慮）がなされているか リンクモデルによる農村開発の優位性は何か	村落委員会（GC）には必ず女性委員が含まれる。また、その下部組織として女性グループ（MD）が形成されることがめられているなど、配慮はなされている。	他ドナーの類似プロジェクトは主としてユニオンレベルの地方行政強化を焦点を当てている。これに対して、プロジェクト（リンクモデル）は村落住民の参加とNBDsサービスとの

評価 5項目	評価設問		判断基準・方法	結 果
	大項目	小項目		
有効性（予測）			他ドナーのアプローチとの違い バ側のリンクモデルに 対する評価	連携、UCCM を通じた村落住民のニーズに焦点を当てており、ほかにはないものである。
		(事前評価以降) プロジェクトをとりまく環境の変化があったか	他ドナーの動向はプロジェクトに影響したか	● 現時点では大きな影響はみられていない。カリハティ郡では3ユニオンにLGSPが導入されており、小規模インフラの実施において、GC スキームとLGSP が連携して実施している例がいくつもある。 ● ユニオンレベルでの活動は重複する面もあると考えられ、今後の調整・連携が必要である。また、農村開発や地方自治分野のドナー会議などに積極的に参加し、本プロジェクトの認知と理解を進めると共に、連携の可能性を探る必要がある。
		プロジェクト目標はどの程度達成されているか。達成される見込みか	中間時点での達成度は十分か (プロジェクト中間時点での達成度をどの程度に設定していたか)	● やや遅れ 味だが活動は進捗しており、カリハティ郡レベルでリンクモデルが機能する見込みである。 ● UCCM は15ユニオンすべてでほぼ毎月開催され、開発活動のプラットフォームとして機能している。UP メンバー及びMBDsの約60%、GC 代表の約70%がUCCM に毎回参加しており、リンクモデルを高く評価している。GC 及びMDのすべてが自立的になってはいないが、形成されたGC 及びMDの中には既に自らのイニシアティブで村落を改善している活動的なものもある。
		プロジェクト目標の達成を阻害する要因はあるか	リンクモデルの普及についてのバ国 (BRDB、MLGRD&C) のニーズ、は明確か がリンクモデルを推進する部署として位置付けられているか その他の阻害要因があるか	● BRDB 内ではリンクモデルは高く評価され、プロジェクトの実施に協力的である。 ● BRDB はリンクモデルの検討と拡大のための委員会を設置し、リンクモデルを5ユニオンで開始することを決定している。
LMC		成果はプロジェクト目標を達成するために十分であるか (プロジェクト目標の達成はプロジェクトの成果によって引き起こされる効果であるか)	アウトプットが達成されればプロジェクト目標が達成されるという因果関係は十分に論理的か (因果関係の検証)	● リンクモデル室 (LMC) はPRDP2のプロジェクト限定の運営管理室である。現時点ではリンクモデルを普及する推進室としてBRDB に位置づけられてはいない。 ● BRDB は上欄のとおり、リンクモデル拡大のための委員会を設置している。 ● 研修管理 (リンクモデル普及のための人材育成システムの確立のための) 分野における技術移転に遅れが出ている。
		プロジェクト目標に至るまでに外部条件の影響はあるか	プロジェクト目標に至るまでの外部条件は現時点においても正しいか 外部条件が満たされる可能性は高いか に記載されていないが、影響を与えた外部条件があるか	因果関係はほぼ論理的である。 UDO/O の定着は外部条件となっている。
PDM		プロジェクト目標に至るまでに外部条件の影響はあるか	プロジェクト外部の因果関係の検証	UDO/O の離職は、新規雇用及びその研修で対処されている。
				特にない。

評価項目	評価設問		判断基準・方法	結 果
	大項目	小項目		
効率性	成果は達成されているか	プロジェクト中間時点における達成度は適切か	実績と計画値の比較（指標値の設定は適切か）	やや遅れ 味であるが、POと比較した進捗状況に大きな問題はない。全般的に UDO/U をいかに育成し、GC をいかに形成し、UCCM をいかに機能させるかに が見受けられる。GC の対応に追われているように見受けられる。
	成果を得るために活動と活動に必要な投入の規模や質は適当か	C/P の専門性・能力、人数、従事期間は適当であったか 投入された機材の性能や数は適切であったか 専門家の専門性、人数、従事期間は適当であったか 研修員受け入れ人数、分野、研修内容は適当であったか	計画に対する実績活動、成果達成との整合性	C/P はほとんどにおいてきちんと配置されている。しかし、LMTC における技術移転対象スタッフを明確にする必要がある。 特に問題はなく、適切であったと言える。
	活動に必要な投入のタイミングは適切であったか	C/P はタイミングよく配置されたか 供与機材や C/P 側の便宜供与、予算手当、機材等が早すぎたり遅れたりすることはなかったか 専門家はタイミミングよく派遣、配置されたか	計画に対する実績活動、成果達成との整合性	農村開発及び研修管理の JICA 専門家は長期専門家から短期専門家への派遣に変更された。しかし、今後の成果の達成に重大な影響を与えてはいない。 ほぼ適切であった。 インドの技術交換研修については期間が短か過ぎたとの意見も多かったが、郡令 (UNO)、UP 議長・ 書などの開発におけるボトムアップの重要性の認識に大きく貢献した。 特に問題はない。
	類似プロジェクトと比較した効率性	他ドナーのプロジェクトにおける投入と比較（すべてのユニオンに UDO・O を配置することはコストが高いとの指摘がある。代替案は検討されたか）	類似プロジェクトとの比較 バ側の実施拡大の実現可能性	特に問題はなく、適切であった。 上記の短期専門家の派遣以外には、計画からの変更はない。
	プロジェクトの効率性に影響を与えた外部条件	活動から成果に至るまでの外部条件の影響はあるか	プロジェクト外部の因果関係の検証	- 全国的に展開しようとする場合には、UDO/O にかかる人件費は BRDB で負担できないであろう。BRDB では現在検討している 5 ユニオンでの拡大実施では、内部人材 (ARDO や女性部の人材) の 用を検討している。 - 今後プロジェクトでリンクモデルのパ側による実施にむけて、リンクモデルのコストやコスト削減の代替案等を整理し明確にしていく必要があると思われる。
	プロジェクトの効率性に影響を与えたその他の貢献・阻害要因はあ	JOCV の活動への関与は効率性に影響を与えたか	活動推進への影響を判断する	外部条件である「育成をうけた UDO/O のプロジェクトでの継続的勤務」は必ずしも満たされていないが、新規雇用・補充等により対処されている。しかし、新たな人材のリクルート及び研修に計画されていた以上の労力が必要であった。 JOCV の存在と活動は本プロジェクトの活動の大きな貢献要因である。しかし、インプットとして位置付けられてはならず効率性を問うことは困難である。

評価項目	評価設問		判断基準・方法	結 果
	大項目	小項目		
インパクト	るか。	その他の貢献・阻害要因はあるか	効率性への影響を判断する	外部からの視察者、本プロジェクトの良さを知っての問い合わせ等は、関係者には大きなモチベーションとなったが、効率性には影響を与えていない。
	上位目標は達成される見込みか	上位目標の達成見込みは、今後どのように予測されるか	BRDB 及び MLGRD&C がリンクモデルを農村開発の戦略のひとつとして推進していく意思があるか	BRDB はリンクモデルを推進していく意思はあるが、本プロジェクトのインパクトとして（本プロジェクト数年後に）上位目標が達成される見込みは低い。
	上位目標に至るまでにどのような外部条件の影響が考えられるか		LMC がリンクモデル推進活動の部署となりうるか	LMC はプロジェクト運営管理室であり、現在のところそのように位置付けられていない。
	現時点で予想しなかった正・負の影響・波及効果はあったか	外部条件は現時点でも正しいか	因果関係の再検討（政策、法・制度面、技術面）	正しい。
		プラスのインパクト		- カリハティでは後 2007 年の洪水災害の際に、UCC 及び GC が災害 済品の配布及び早期復興のためのプラットフォームとして活用された。 - プロジェクト実施ユニオンの（プロジェクト対象外の）隣接ユニオンの村落が、PRDP2 及びリンクモデルに関心を持ち、これらのユニオンや住民から URDO への情報提供の依頼がある。
自立発展性		マイナスのインパクト		特にない。
	政策支援はプロジェクト終了後も継続する見込みか	リンクモデルを BRDB 及び MLGRD&C が今後農村開発の戦略の一つとして取り組むか	政策支援があるか 計画や構想があり、その実施実現性が高いか	BRDB のリンクモデルの評価は高く、その拡大実施を計画している。 2007 年 10 月、BRDB 内にリンクモデルの試験的拡大を協議する委員会（PRAC: Progress Review and Advisory Committee）が設置され、2007 年 11 月の第 1 回会議で 5 つのユニオンでの拡大実施を決定している。
	リンクモデルがプロジェクト終了後も継続して拡大実施されるか	BRDB がリンクモデルを他地域で拡大実施していくか UCCM の設置が制度化されるか	意思があり具体的に取組む用意がある 制度化される実現性は高いか	リンクモデルが拡大実施される地域においては設置される可能性が高い。
		各ユニオンにおける UDO/O の配置が制度化されるか	制度化される実現性は高いか 代替案はあるか	UDO/O はリンクモデルのキーであり、BRDB の拡大実施地域（5 ユニオン）については内部の人材を UDO として任命している。
	組織財政面の自立発展性（実施機関が成果を継続していく人材、経費、制度を確保しているか）	予算の確保は行われる見込みか。 BRDB がリンクモデルの普及拡大のための組織として今後も位置付けられていくか	見込みは高いか 見込みは高いか	現時点では、BRDB の拡大地域（5 ユニオン）については見込みは高い。しかし、プロジェクト対象地域について、プロジェクト終了後の予算確保は明確ではない。 現時点では、リンクモデルを普及するとすれば、BRDB である。

評価 5 項目	評価設問		判断基準・方法	結 果
	大項目	小項目		
		人材は確保される見込みか	見込みは高いか	現時点では、BRDB の拡大地域（5 ユニオン）については確保されている。しかしプロジェクト対象地域について、プロジェクト終了後に UDO 及びオーガナイザーが確保されるかどうかは明確ではない。
	技術面から見た自立発展性	BRDB が普及のメカニズムを維持できる可能性はどの程度と見込まれるか	内部技術移転の状況 セミナー等の開催能力 研修モニタリング能力	- 何をいかに技術移転していくかはプロジェクト後半の中心課題である。 - 普及メカニズムの構築のためには、人材育成（研修管理）の技術移転対象が明確にされることも必要である。
		投入された機材、技術移転を受けた人材は今後有効に活用されるか	機材の管理状況 育成された人材の活用・配置計画等	- 機材には問題ない。 - BRDB の拡大地域（5 ユニオン）については人材は確保され、今後育成される予定である。プロジェクト対象地域の UDO 及びオーガナイザーについてはプロジェクト終了後にどのように活用されるか現時点では明確ではない。
	持続効果を げるような、社会・文化・環境面に おける配慮不足はないか 今後、自立発展性に影響を与えられられる貢献・阻害要因は何か			特にない。
	ドナーとの連携・協 調・ 合			特にない。
そ の 他		他ドナーの活動と重複 はないか		現在カリハティ郡の 3 ユニオンに LGSP（Local Governance Support Program）が実施されており、さらに拡大されていく可能性は高い。
		連携の可能性はあるか 合による問題等が起 きているか		リンクモデルはユニオンレベルの自治能力強化のプラットフォームとなりうると考えられ、うまく連携していけばよりよい効果的も期待できると思われるが、ユニオンレベルでの重複等の調整など必要であり、別局下で実施されていることもあり、情報収集と今後の十分な協議が必要である。

PROJECT DESIGN MATRIX (Revised Version)

Implementing Agency in Japan: JICA
Implementing Agency in Bangladesh: BRDB
Duration: 2005- 2010

PDM2
as of March 1st 2008

Narrative Summary	Objectively Verifiable Indicators	Means of Verification	Important Assumptions
(OVERALL GOAL) Link Model* is extended in Bangladesh in accordance with the regional characteristics. * A framework to incorporate the needs of rural population in the process of development by linking villages and local government institutions concerning rural development.	1. Link Model Cell continues activities to promote Link Model 2. The training center is actively utilized	1. Activity records of Link Model Cell	1. Rural development policy is maintained by the Government of Bangladesh.
(PROJECT PURPOSE) Link Model functions in the project area and the extending system of the Link Model is established.	1. Positive participation in Link Model activities by all parties (local government and people) concerned 2. The quality and number of the activities for village development implemented. 3. The Action plan for extension is formulated.	1. Questionnaire and interview 2. Interview 3. Project records	2. BRDB remains as a governmental body responsible for rural development. 3. Budget for Link Model Activities is secured.
(OUTPUTS) 1. Union Development Officers (UDOs) and Organizers responsible for overall coordination at Union Coordination Committee (UCC), are institutionalized in BRDB. 2. UCC functions as a platform to facilitate overall coordination among Upazila, Union, and Villages. 3. Gram committee (GC) functions as an organization to ensure villagers' participation in rural development process in order to contribute to the improvement of the villagers' quality of life.	By the project completion : 1-1 16 UDOs and 16 Organizers are continuously appointed for the Project. 1-2 UDO/O able to explain Link Model based on their experiences. 2-1 Each stakeholder attends UCCM (UP 60%, NBDs 60%, GC 60%, NGOs 60%) 2-2 Notice boards are set up in 16 Unions. 2-3 The number of information notice. 2-4 The number of UCCM participants (UP, NBDs, GC, NGOs) who have completed training. 2-5 Experience of PRDP is shared among Upazila officers. 3-1 GC is organized in 60% of villages in each Union. 3-2 The number of GCM held. 3-3 The number of women's groups formulated. 3-4 The number of planning documents of GC scheme submitted to UCCM. 3-5 The number of GC scheme implemented. 3-6 The number of NBD field workers who have visited GCM. 3-7 80% of GC has completed training. 3-8 70 % of GC will continuously hold GCM. 3-9 Benefit of the Project is verified.	1-1 Project records 1-2 Case studies prepared by UDO/O. Lecturer records. Interview. 2-1 Meeting minutes, attendants' list 2-2 UCCM minutes 2-3 Information notice records 2-4 Training records 2-5 Project records describing activities for awareness raising 3-1 UCCM minutes 3-2 GCM minutes 3-3 GCM minutes 3-4 UCCM minutes 3-5 UCCM minutes 3-6 GCM minutes, attendants' list 3-7 Training records 3-8 Sample survey of GC. 3-9 Impact survey based on the baseline survey	4. NBD extension workers are continuously sent to the Union.

4. The operational system of the Link Model is established in BRDB.	4-1 The number of Dist.DD reports regarding Link Model submitted to LMC. 4-2 The number of meetings organized. 4-3 Establishment of Homepage. 4-4 The number of seminars organized. 4-5 The understanding of Link Model by BRDB staffs is improved. 4-6 Operation manuals of Link Model are prepared and accepted by BRDB. 4-7 Action Plan is prepared by LMC. 4-8 BRDB starts Link Model with its own budget and manpower.	4-1 Received Dist.DD reports regarding Link Model activities by LMC 4-2 Meeting minutes 4-3 Project report 4-4 Seminar records 4-5 Questionnaire Survey 4-6 Prepared operation manuals and their discussion record of BRDB. 4-7 Prepared Action Plan 4-8 Project record of Link Model by BRDB.	
5. The system of human resource development for stakeholders of Link Model is established and enhanced.	5-1 The training plan prepared. 5-2 The number of trainers recruited. 5-3 The number of training curriculums prepared. 5-4 The number of attendance to UCCM and GCM by DD, AD (Training).	5-1 Training center activity records 5-2 Training center activity records 5-3 Training center activity records 5-4 UCCM and GCM minutes, attendants' list	
(Activities) 1-1 Recruiting UDOs and Organizers 1-2 Placing UDOs and UOs in the command of BRDB 1-3 Training UDOs and Organizers 2-1 Organizing Union Coordination Committee (UCC) 2-2 Facilitating collaboration among stakeholders at UCC. 2-3 Setting notice boards and notifying information. 2-4 Training participants of UCCM. 2-5 Awareness raising for Upazila officers 3-1 Organizing Gram Committee (GC). 3-2 Promoting organization of women's group under GC. 3-3 Promoting planning for small-scale infrastructure projects (GC scheme). 3-4 Implementing GC scheme. 3-5 Promoting NBD field workers' visit of GC meeting. 3-6 Training GC. 4-1 Strengthening the capacity of Link Model Cell (LMC). 4-2 Preparing institutionalization of Link Model under the initiative of LMC. 4-3 Preparation of Operational Manuals 4-4 Preparation of Action Plan 5-1 Preparing training facilities. 5-2 Finalizing training plans. 5-3 Recruiting/training trainers. 5-4 Preparing training curriculums. 5-5 Preparing training materials. 5-6 Capacity building of management by LMTC 5-7 Monitoring and evaluating training outcomes.	(Inputs) Japanese Side 1. Dispatch of Japanese Experts (1) Long-term Experts Chief Advisor Rural Development/ Participatory Development Training Coordinator (2) Short-term Experts As necessary 2. Provision of machinery and equipment 3. Counterparts training in Japan and/or the third country(ies) 4. Cost for the infrastructure development and the Project activities	 Bangladesh Side 1. Assignment of Personnel (1) UDOs, Organizers (2) Counterparts (3) Administrative Personnel 2. Provision of land, building and facilities 3. Budgetary allocations 4. Privileges, Exemptions and Benefits	5. Trained UDOs and FAs remain in the project.
			(PRE-CONDITIONS) 6. Rural residents do not protest against the PRDP (phase II). 7. Budget to recruit Bangladeshi personnel including UDOs, Organizers 7. Counterparts and supporting staff is secured by the Government of Bangladesh.

プロジェクト・デザイン・マトリクス (改定版)

日本側実施機関： 国際協力機構 (JICA)
バングラデシチュ側実施機関： バングラデシチュ農村開発公社 (BRDB)
期間：2005年6月1日～2010年5月31日

PDM 2
2008年3月11日

プロジェクトの要約		指標	指標データの入手手段	外部条件
(上位目標)	バングラデシチュ国において、地域の特性に応じた仕組みにより、村落住民の意向が反映された開発が行われる。	1. リンクモデル室がリンクモデルを継続している 2. 研修施設が活発に活用されている	1. リンクモデルセルの活動記録	1. 農村開発がバングラデシチュ政府の政策として維持される 2. BRDBが農村開発を主管する政府組織として存続する 3. リンクモデル活動の予算が確保される
(プロジェクト目標)	村落住民と末端の農村開発行政機関を結び、村落住民の意向が開発に反映される仕組み(リンクモデル)が対象地域において機能し、その普及の体制が整う。	1. リンクモデル関係者の活動への積極的参加 2. 実施された村落開発活動の質及び数 3. 普及に向けた行動計画の内容	1. 質問票、インタビュー 2. インタビュー 3. プロジェクト記録	1. 農村開発がバングラデシチュ政府の政策として維持される 2. BRDBが農村開発を主管する政府組織として存続する 3. リンクモデル活動の予算が確保される
(成果)	1. ユニオン調整委員会 (UCC) の連絡調整を担うユニオン開発官 (UDO) 及びオーガナイザー(O)が BRDB の行政官として育成される。 2. UCC が、郡、ユニオン(行政村)、村落間の連携を強化する土台として機能する。 3. 村落開発委員会 (VC) を中心として農村住民の開発プロセスへの参加を確保する仕組みが機能し、この仕組みを通じて住民の生活の質が向上する。 4. リンクモデルの実施体制が BRDB において強化される	プロジェクト終了時までに： 1-1 UDO16名とOI6名が継続してプロジェクトに任命される 1-2 UDO/O が自らの経験に基づいてリンクモデルについて説明できるようになる 2-1 関係者の出席率(UP 60%, NBDs 60%, GC 60%, NGOs 60%) 2-2 16ユニオンに掲示板が設置される 2-3 掲示された情報数 2-4 研修を受けた UCCM の参加者数(UP, NBDs, VC, NGOs) 2-5 PRDP の経験が郡担当官の間で共有される 3-1 各ユニオンでVC が 60%の村で形成される 3-2 開催された VCM 数 3-3 形成された女性部会数 3-4 UCCM に提出された VC スキーム計画書数 3-5 実施された VC スキーム数 3-6 VCM に参加した各省普及員数 3-7 VC の 80% がトレーニングを受ける 3-8 結成された GC の内、7割が継続して GCM を開催する 3-9 プロジェクトの便益が検証される 4-1 リンクモデルセルに提出されたリンクモデルに関する Dist.DD の報告書数 4-2 開催された会議数	1-1 プロジェクト記録 1-2 UDO/O が作成した事例。講演記録。インタビュー 2-1 会議議事録、参加者リスト 2-2 UCCM 議事録 2-3 掲示情報記録 2-4 研修記録 2-5 意識向上のための活動を記載したプロジェクト記録 3-1 UCCM 議事録 3-2 VCM 議事録 3-3 VCM 議事録 3-4 UCCM 議事録 3-5 UCCM 議事録 3-6 VCM 議事録、参加者リスト 3-7 研修記録 3-8 GC のサンプル調査 3-9 ベースライン調査に基づくインパクト調査 4-1 リンクモデルセルが Dist.DD から受領したリンクモデル活動に関する報告書 4-2 会議議事録	1. 農村開発がバングラデシチュ政府の政策として維持される 2. BRDBが農村開発を主管する政府組織として存続する 3. リンクモデル活動の予算が確保される 4. 各省の普及員が継続してユニオンに派遣される

4	3 ホームページの開設 4-4 実施されたセミナー数 4-5 BRDB 職員のリンクモデルの認知度が向上する 4-6 リンクモデル実施手引書が作成され、それが BRDB に受け入れられる 4-7 LMC により策定された行動計画 4-8 BRDB が独自の予算と人員を使ってリンクモデルを開始する	4-3 プロジェクト記録 4-4 セミナー記録 4-5 アンケート調査 4-6 作成されたリンクモデル手引書及び BRDB 内の検討記録 4-7 策定された行動計画 4-8 BRDB によるリンクモデルのプロジェクト記録	
5. リンクモデル関係者のための人材育成システムが確立、強化される	5-1 作成された研修計画 5-2 リクルートされた講師数 5-3 作成された研修カリキュラム数 5-4 DD, AD (Training) が UCCM と VCM に出席した回数		
(活動) 1-1 UDO と O をリクルートする 1-2 BRDB における指示・命令系統を確立する 1-3 UDO と O に対する研修を実施する 2-1 ユニオン連絡調整委員会 (UCC) を形成する 2-2 UCC 会議を開催して関係者間の情報共有を図る 2-3 掲示板を設置して情報を公開する 2-4 UCCM に集まるアクターに対し研修を実施する 2-5 郡担当官の意識向上 3-1 VC を形成する 3-2 VC における女性部会の形成を促進する 3-3 VC による村落小規模インフラ事業(VC スキーム)の計画策定を推奨する 3-4 村落小規模インフラ事業(VC スキーム)を実施する 3-5 VC による NBD s (各省普及員)へのアクセスを支援する 3-6 VC に対し研修を実施する 4-1 リンクモデルセルの機能強化を行う 4-2 リンクモデルセルが中心となってリンクモデルが制度化される準備を整える 4-3 実施マニキュアルの作成 4-4 行動計画の策定 5-1 研修施設を整える 5-2 研修計画を完成させる 5-3 講師をリクルートする 5-4 カリキュラムを作成する 5-5 教材を作成する 5-6 LMTC が管理能力強化を行う 5-7 研修結果をモニタリング・評価する	(投入) 1. 専門家派遣 (1) 長期専門家 チーフアドバイザー 農村開発/住民参加 研修計画 業務調整/ジェンダー (2) 短期専門家 必要に応じて派遣 2. 機材供与 3. 本邦/第三国への研修員の受入 4. 現地業務費 日本国 1. 人員の配置 (1) UDOs, Os (2) カウンターパート (3) 補助職員 土地、建物、施設の提供 ローカルコスト 2. 3. 4. バングラデシュ国	4-3 プロジェクト記録 4-4 セミナー記録 4-5 アンケート調査 4-6 作成されたリンクモデル手引書及び BRDB 内の検討記録 4-7 策定された行動計画 4-8 BRDB によるリンクモデルのプロジェクト記録	5. 研修を受けた UDO、O がプロジェクトに継続して勤務する (前提条件) 6. 農村住民がプロジェクトに反対しない 7. UDO、O、カウンタースパート、補助職員を含むプロジェクトの人員を雇用する予算がバングラデシュ政府によって確保される

PDM 改定の内容

変更前	変更内容	変更後	
		OVI (指標) MV	(指標) への入手手段
OUTPUT 1 <u>OVI (指標)</u> 1-1 16 UDOs and 16 Organizers are recruited. 1-2 80% UDOs and Organizers attend Weekly Staff Meetings and Bimonthly Project Coordination Meetings. 1-3 UDOs submit UDO Monthly Activity Report to BRDB. 1-4 The number of UDOs and Organizers who have completed training.	1-1 (一部変更) 16 UDOs and 16 Organizers are recruited are continuously appointed for the Project. 1-2 削除 1-3 削除 1-4 削除	1-1 16 UDOs and 16 Organizers are continuously appointed for the Project.	1-1 Project record
1-2 UDO/O are able to explain Link Model based on their experiences.	‘1-2’ として新たに追加	1-2 UDO/O are able to explain Link Model based on their experiences.	1-2 Case studies prepared by UDO/O, Lecture records, Interview
OUTPUT 2 <u>OVI (指標)</u> 2-1 16 UCCs are formally established. 2-6 PRDP appears in the minutes of UpDCC	2-1 削除 2-6 削除	2-1 Each stakeholder attends UCCM (UP 60%, NBDs 60%, GC 60%, NGOs 60%) 2-2 Notice boards are set up in 16 Unions. 2-3 The number of information notice. 2-4 The number of UCCM participants (UP, NBDs, GC, NGOs) who have completed training.	2-1 Meeting minutes, attendants' list 2-2 UCCM minutes 2-3 Information notice records 2-4 Training records
2-5 Experience of PRDP is shared among Upazila officers.	‘2-5’ として新たに追加	2-5 Experience of PRDP is shared among Upazila officers.	2-5 Project records describing activities for awareness raising
OUTPUT 3 <u>OVI (指標)</u>		3-1 GC is organized in 60% of villages in each Union. 3-2 The number of GCM held. 3-3 The number of women's groups formulated. 3-4 The number of planning documents of GC scheme submitted to UCCM. 3-5 The number of GC scheme implemented. 3-6 The number of NBD field workers who have visited GCM. 3-7 80% of GC has completed training. 3-8 70% of GC will continuously hold GCM 3-9 Benefit of the Project is verified	3-1 UCCM minutes 3-2 GCM minutes 3-3 GCM minutes 3-4 UCCM minutes 3-5 UCCM minutes 3-6 GCM minutes, attendants' list 3-7 Training records 3-8 Sample survey for GC 3-9 Impact survey based on the

変更前	変更内容	変更後	
		OVI (指標) MV	(指標データの入手手段)
OUTPUT 4 OVI (指標)			baseline survey
4-1 The number of attendance to UCCM by Dist DD, URDO and ARDO. 4-7 Gazette Notification is issued for UCC. 4-8 LMC is placed within BRDB organogram. 4-9 The recognition of Link Model is improved.	4-1 削除 4-7 削除 4-8 削除 4-9 (一部変更) The understanding of Link Model by <u>BRDB staff</u> is improved.	4-1 The number of Dist DD reports regarding Link Model submitted to LMC. 4-2 The number of meetings organized. 4-3 Establishment of Homepage. 4-4 The number of seminars organized. 4-5 Action Plan is prepared by LMC. 4-6 The understanding of Link Model by BRDB staff is improved. 4-7 Operation manuals of Link Model are prepared and accepted by BRDB 4-8 BRDB starts Link Model with its own budget and manpower	4-1 Received Dist DD reports regarding Link Model activities by LMC 4-2 Meeting minutes 4-3 Project report 4-4 Seminar records 4-5 Prepared Action Plan 4-6 Questionnaire Survey 4-7 Prepared operation manuals and their discussion records of BRDB 4-8 Project record of Link Model by BRDB
4-7 Operation manuals of Link Model are prepared and accepted by BRDB 4-8 BRDB starts Link Model with its own budget and manpower	‘4-7’ として新たに追加 ‘4-8’ として新たに追加		
OUTPUT 5 The system of human resource development, aiming at the UDO, UO, VC members, staffs or concerned rural development department agencies and NGO staffs, is established and enhanced.	次のように変更 The system of human resource development for stakeholders of Link Model, aiming at the UDO, UO, VC members, staffs or concerned rural development department agencies and NGO staffs , is established and enhanced.	The system of human resource development for stakeholders of Link Model, is established and enhanced.	
OVI (指標) 5-1 The training facilities prepared.	5-1 削除 5-1	The training plan prepared. 5-2 The number of trainers recruited. 5-3 The number of training curriculums prepared. 5-4 The number of attendance to UCCM and VCM by DD, AD (Training).	5-1 Training center activity records 5-2 Training center activity records 5-3 Training center activity records 5-4 UCCM and VCM minutes, attendants' list
ACTIVITIES 2-5 Participating in Upazila Development Coordination Committee.	2-5 (次のように変更) Awareness raising for Upazila officers	2-5 Awareness raising for Upazila officers	
4-1 Strengthening the capacity of Link Model Cell (LMC). 4-1-1 Establishing staffing of LMC 4-1-2 Establishing line of command and feedback. 4-1-3 Monitoring and feedback of UCC and VC 4-1-4 Organizing project related meetings regularly. 4-1-5 Conducting public relations of Link Model.	4-1 変更無し 4-1-1 削除 4-1-2 削除 4-1-3 削除 4-1-4 削除 4-1-5 削除.		

変更前	変更内容	変更後	
		OVI (指標) MV	(指標データの入手手段)
4-2 Preparing institutionalization of Link Model under the initiative of LMC. 4-2-1 Preparing issuing necessary gazette notifications. 4-2-2 4-2-2 Organize Joint Coordination Committee 4-2-3 Maintain necessary liaisons with concerned ministries. 4-2-4 Prepare action plan to extend the Link Model 4-2-5 Collect information from other organizations/donors, and exchange ideas. 4-2-6 Coordinate programs between related JICA projects and other donors. 4-2-7 Hold seminars involving other organizations/donors. 4-2-8 Receive visitors to project offices/field sites.	4-2 変更無し 4-2-1 削除 4-2-2 削除 4-2-3 削除 4-2-4 削除 4-2-5 削除 4-2-6 削除 4-2-7 削除 4-2-8 削除		
4-3 Preparation of Operational Manuals	‘4-3’ として新たに追加	4-3 Preparation of Operational Manuals	
4-4 Preparafion of Action Plan	‘4-4’ として新たに追加	4-4 Preparafion of Action Plan	
5-3 Recruiting trainers.	5-3 (次のように変更) Recruiting/training trainers.	5-3 Recruiting/training trainers.	
5-6 Capacity building of management by LMTC	‘5-6’ として新たに追加	5-6 Capacity building of management by LMTC	
5-6 Monitoring and evaluating training outcomes. ‘5-6’	を ‘5-7’ に変更	5-7 Monitoring and evaluating training outcomes.	

主要面談者

1. バングラデシュ側

- (1) 地方自治農村開発協同組合省 (Ministry of Local Government, Rural Development & Cooperation)
 - ・ A.T.M. Fazlul Karim, Secretary in Charge, Rural Development & Cooperative Division
 - ・ Mizanur Rahman, Joint Secretary, Local Government Division
 - ・ Abdus Sobhan Sikder, Director General, Bangladesh Rural Development Board (BRDB), Rural Development & Cooperative Division
- (2) タンガイル県カリハティ郡
 - ・ Md. Saifullahil Azam, Upazilla Nirbahi Officer, Kalihati, Tangail
 - ・ NBD Officer, Department of Health
 - ・ NBD Officer, Department of Family Planning
 - ・ NBD Officer, Department of Public Health Engineering
 - ・ UP Chairman, Birbashinda Union
 - ・ GC Members, Guaria Village, Birbashinda Union
 - ・ MD Members, Gunipara Village, Birbashinda Union
- (3) コミラ県ティタシュ郡
 - ・ GC Members, Kanainagor Village, Jagotpur Union
 - ・ UP Chairman, Jagotpur Union
- (4) プロジェクト関係者

LMC

- ・ A.K.M. Nazibullah Khan, Project Director, BRDB
- ・ Md. Aminur Rahman Khan, Deputy Director, BRDB
- ・ Mahbubur Rahman, Local Consultant for PRDP2 (Ex-Project Director of PRDP2)

ティタシュ郡

- ・ Md. Aminul Islam Chowdhury, Upazila Rural Development Officer, BRDB (Titash, Comilla)
- ・ UDOs and Organizers

カリハティ郡

- ・ Bimol Das, Upazila Rural Development Officer, BRDB (Kalihati, Tangail)
- ・ Md. Hasanul Hoque Mollah, Assistant Rural Development Officer, BRDB (Kalihati, Tangail)
- ・ UDOs and Organizers

リンクモデル研修センター (LMTC)

- ・ Md. Sohrab Ali, Deputy Director, BRDB (Tangail cum LMTC)
- ・ A.K.M. Shafiqul Islam, Assistant Director, LMTC
- ・ Md. Rais Uddin, Instructor, Project Staff, PRDP2
- ・ Salim Hossain Bhuiyan, Monitoring and Research Officer, Project Staff, PRDP2

2. 日本側

(1) JICA 専門家

- ・宗像朗、チーフアドバイザー
- ・安田千恵子、業務調整
- ・渡辺弘毅、農村開発/参加型開発
- ・田中祥子、研修管理・運営

(2) 青年海外協力隊

- ・田中秀喜、フィールド調整員
- ・青年海外協力隊員（村落普及員）、メヘルプール郡、カリハティ郡、ティタシュ郡

2. 日本側

(1) JICA 専門家

- ・宗像朗、チーフアドバイザー
- ・安田千恵子、業務調整
- ・渡辺弘毅、農村開発/参加型開発
- ・田中祥子、研修管理・運営

(2) 青年海外協力隊

- ・田中秀喜、フィールド調整員
- ・青年海外協力隊員（村落普及員）、メヘルプール郡、カリハティ郡、ティタシュ郡

運営指導調査団帰国報告会資料 (2006 年 4 月)

第 1 章 調査の概要

1-1 調査団派遣の経緯

バングラデシュ国（以下「バ」国）では、全人口の 80%が農村部に居住し、全就労人口の約 3 分の 2 が農林水産業に従事している。バ国では、都市部の貧困率 36%に対し、農村部の貧困率は 53%にも達している。農村部においては、縦割り行政の弊害やリソースの不足から、教育や保健衛生などのサービスが十分に住民に行き届いていないのが現状である。このように、バ国の農村部では、経済的貧困だけでなく教育・保健衛生面における社会的貧困も深刻な問題となっている。

地方行政が未発達のバ国では、行政サービスの提供が不十分であるだけでなく、住民のニーズを行政側に吸い上げる仕組みが機能しておらず、住民の地方行政への参加意識は醸成されにくい状況にあった。このような状況の中、国際協力機構（以下「JICA」）は、行政と住民を結びつけるアプローチ（縦のリンク）と、各行政サービスを結びつけるアプローチ（横のリンク）に着目し、村落住民に対して適切な行政サービスを提供するための仕組み「リンクモデル」を構築してきた。2000-2003 年度に渡って実施された「住民参加型開発行政支援（PRDP）」（以下、「フェーズ 1」）では、同リンクモデルが、タンガイル県カリハティ郡の 4 つのユニオンにおいて構築・実施され、同リンクモデルを通じて村落住民のニーズにあった普及サービスが効率的に実施されることが実証された。

2005 年 6 月から同プロジェクトのフェーズ 2 が開始され、同リンクモデルをタンガイル県（12 ユニオン）、メヘルプール県（2 ユニオン）、コミラ県（2 ユニオン）の 3 県 16 ユニオンに普及させることを目指している。フェーズ 1 ではリンクモデルの有効性がユニオンレベルで実証されたが、同モデルのさらなる定着を図るために、フェーズ 2 ではリンクモデルの郡レベルでの定着と汎用性、実用性の高いモデル形成を通じ、国レベルでの普及推進体制の確立を目標としている。げんざい、協力開始から 9 か月が経過し、これまでにユニオン開発官やオーガナイザー（以下、UDO/O）の雇用・研修、女性研修所の整備、ユニオン連絡調整委員会（UCCM）や村落委員会（VC）の発足・運営等が行われている。

1-2 調査目的

2005 年 6 月から開始した同案件について、現在の進捗状況を把握するとともに、今後の詳細実施計画を決定する。また、必要に応じ、今後のプロジェクト運営に対する助言・指導を行う。

1-3 調査内容

- (1) 先方実施機関、プロジェクト専門家、JICA 事務所との協議及び現場調査を通じ、プロジェクトの現在の進捗状況を把握する。
- (2) バ国におけるローカルガバナンスの動向について情報収集を行う。
- (3) プロジェクト・デザイン・マトリクス（PDM）及び詳細計画（PO：Plan of Operation）

に関し、関係者と協議を行う。

- (4) 合同調整委員会（JCC）に参加し、協議結果をミニッツにとりまとめ、署名する。
- (5) 2007 年度以降の投入計画について確認を行い、必要に応じて助言・提言を行うとともに、国内支援委員会にフィードバックする。
- (6) 調査結果につき報告書に取りまとめるとともに、帰国後、国内支援委員会に報告する。

1－4 調査団構成

分 野	氏 名	所 属
総括/研修計画	佐藤 寛	アジア経済研究所開発研究センター 主任研究員
住民組織	筒井 哲朗	シャプラニール＝市民による海外協力の会 事務局次長
プロジェクト運営管理	松本 賢一	JICA 農村開発部第一グループ貧困削減・水田 地帯第一チーム

1－5 調査日程

2006 年 4 月 1 日（土）から 4 月 6 日（金）合計 6 日間

	Date	Day	Schedule	Accommodation
1	Apr1	Sat	(Move: Bangkok-Dhaka) Meeting with experts and JICA office	Dhaka
2	Apr2	Sun	Courtesy Call to JICA, EOJ, ERD, RDCD Meeting with BRDB (Move: Dhaka-Tangail)	Tangail
3	Apr3	Mon	Field Survey (Move: Tangail-Dhaka)	Dhaka
4	Apr4	Tue	Discussion on PDM and PO Meeting with JICA (Local Governance) Attend the final report meeting of Mr. Ito	Dhaka
5	Apr5	Wed	Preparation for M/M JCC meeting Report to JICA	Dhaka
6	Apr6	Thu	Signing of M/M (Move: Dhaka-Bangkok)	

1－6 主要面談者

- (1) 大蔵省対外経済局

(Economic Relations Division (ERD), Ministry of Finance)

Mr. M. Emadatul Haque, Deputy Secretary

(2) 農村開発協同組合庁

(Rural Development and Cooperative Division (RDCD),
Ministry of Local Government Rural Development and Cooperatives)

Mr. Rafiqul Islam, Secretary

(3) バングラデシュ農村開発公社

(Bangladesh Rural Development Board (BRDB))

Mr. Md. Abdus Samad Mullick, Director General

Mr. Mahbubur Rahman, Project Director

Mr. Md. Shamsur Rahman Siddiqui, Deputy Director

(4) カリハティ郡

Mr. Md. Shaifullahil Azam, Upazila Nirbahi Officer

(5) 在バングラデシュ国日本大使館

堀口 松城 特命全権大使

(6) JICA 専門家・JOCV 隊員

海田 能宏 チーフアドバイザー

西本 悟朗 業務調整

伊東 隆 個別専門家（大フォリドプール参加型農村開発行政支援（円
借款連携））

渡辺 広毅 JOCV シニア隊員

(7) JICA 事務所

新井 明男 所長

永友 紀章 次長

横田 健太郎 所員

房前 理恵 企画調査員（ガバナンス）

第2章 調査結果の要約

2-1 Project Design Matrix (PDM) の修正

カウンターパート及び専門家と協議の上、適切な指標の数値設定を行った。また、PRDPの対外的発進力の強化に対し、BRDB強化の一環として、PRDPの認知度向上に関する指標を盛り込むこととし、それに伴い必要となる活動を追加した。本変更については合同調整委員会（JCC）にてカウンターパートが発表し、承認された。主な変更点の概要は以下のとおり（下線部が変更）。

Narrative Summary	Objectively Verifiable Indicators
<u>Output</u> 2.UCC functions as a platform to facilitate overall coordination among Upazila, Union, and Villages.	2-2 Each stakeholder attends UCCM (<u>UP 60%, NBDs 60%, VC 60%, NGOs 60%</u>)
3.Village committee (VC) functions as an organization to ensure villagers' participation in rural development process in order to contribute to the improvement of the villagers' quality of life.	3-1 VC is organized in <u>60%</u> of villages in each Union 3-7 <u>80%</u> of VC has completed training
4.The operational system of the Link Model is established in BRDB.	4-9 <u>The recognition of Link Model is improved.</u>
<u>Activities</u> <u>4-2-5 Collect information from other organizations/donors, and exchange ideas.</u> <u>4-2-6 Coordinate programs between related JICA projects and other donors.</u> <u>4-2-7 Hold seminars involving other organizations/donors.</u> <u>4-2-8 Receive visitors to project offices/field sites.</u>	

2-2 Plan of Operations (PO) の策定

PDMの活動項目に沿って当初案から修正した。主な修正内容は、策定された研修計画（案）に基づく研修関連の活動を含めたこと、広報関連活動を明確化したこと、の2点である。PDM同様、合同調整委員会（JCC）にてカウンターパートが発表し、承認された。

第 3 章 調査結果

3-1 これまでの投入実績及び活動実績

(1) 専門家派遣

区分	氏名	指導科目	派遣期間	備考
長期専門家	海田 能宏	チーフアドバイザー	2005.6.1 ~ 2007.5.31	
	西本 悟朗	業務調整	2005.6.1 ~ 2007.5.31	
短期専門家	安野 修	農村開発/参加型開発	2005.7. ~ 2006.3.4	
	杉永 雅彦	研修計画	2005.7. ~ 2006.3.5	

(2) C/P 研修

氏名	職位	研修期間	備考
Mr. Md. Hedayetul Islam Chowdhury	Secretary, RDGD, Ministry of LGRD and Cooperatives	2005.7.4 ~ 2005.7.12	準高級
Mr. Md. Makubul Hossain	Project Director, LDGP, LGED	2005.7.4 ~ 2005.7.16	
Mr. Md. Abdus Samad Mullick	Director General, BRDB	2006.3.12 ~ 2006.3.25	準高級
Mr. Mahbubur Rahman	Project Director, PRDP2, BRDB	2006.2.26 ~ 2006.3.25	
Mr. Md. Shaifullahil Azam	UNO, Kalihati Upazila, Tangail District	2006.2.26 ~ 2006.3.25	
Mr. AKM Shafiqul Islam	Assistant Director, BRDB (Training, WTI)	2006.2.26 ~ 2006.3.25	

(3) 機材供与及び施設整備

オフィス整備及び活動に必要な資機材を選定し、随時調達を行っている。また、カリハティ郡事務所（プロジェクトオフィス）及び女性研修所（WTI）の改築を行った。

3-2 プロジェクトの進捗状況

(1) UDOs 及び Os の配置

フェーズ 2 においては、フェーズ 1 で JICA 側が雇用していた UDOs 及び Os が BRDB の雇用となった。これを受け 2005 年 9 月から BRDB の主体性の下でバ側政府の手続きに則って UDO/O がリクルートされ、1 ヶ月強にわたる研修を経て現在 UDOs15 名、

Os15 名が各ユニオンに配属され、活動を開始している。

(2) ユニオン調整委員会 (UCC)

対象 16 ユニオン（ただし、カリハティ・ユニオンが「ミニシパリティー」と宣言されたために、プロジェクトの対象外になったとの認識が BRDB 側からなされている）中 13 ユニオンで UCC が設立されている。今回調査では新規ユニオンであるエレンガ・ユニオンの第 4 回 UCC に同席したが、結成から日が浅いこと、同ユニオン内で結成されている VC がまだ 1 つにとどまっている（今回の会議にはこの VC 代表は参加していなかった）こと、UDO のファシリテーションが不慣れなこと等から、参加者に十分 UCC の意義が認識されていない印象を受けた。また、水産局の参加者からサービス提供に対する交通費・日当支給の要望や本邦研修に関する要望が呈される場面もあり、リンクモデルの目指す行政サービス提供のあり方についての理解がまだまだ浸透していない印象を受けた。

(3) 村落委員会 (VC)

フェーズ 2 開始後順次 VC が結成されつつあり、これら VC を対象にこれまでに合計 10 の VC スキーム（小規模インフラ事業）が実施されている。既存ユニオンの 1 つであるナランディアユニオン・ポシュナ村を訪問調査したところ、プロジェクトに対する住民の理解も十分得られており、VC の活動を通じて道路が整備され、住民の生活環境改善に寄与している事例が確認できた。また、本プロジェクト地域に派遣されている青年海外協力隊員 (JOCV) の働きかけの結果、同村とショホデプールユニオン・プクリアイチャプール村で女性委員会（モヒラ・ボイトック）の相互訪問プログラムが実施され、住民発意による村落開発活動も徐々に展開されているようである。

ただし、一方でフェーズ 1 で設立された既存 VCの中には活動が停滞したり、休眠状態に陥っているものもあることが確認された（JOCV 活動報告書、JOCV 隊員からの聞き取りなどによる）。

【VC スキームの経費（道路の場合）】

道路整備に必要な盛土の量を計算し、人足代を含めた全体経費を算出する。事業実施に当たっては地元 UP 議員や担当 NBD 職員から成るプロジェクト実施委員会（Project Implementation Committee: PIC）という任意団体を設置し、住民負担の 20% を差し引いた金額がプロジェクトから PIC に対して必要経費として支出される。なお、住民負担分に

今回、VC メンバーとの会話から、彼らにとって VC スキームは大変大きな動議付けになっていることが確認できた。これは単にスキームによってできたモノに対してだけではなく、彼らの自信の回復のプロセスの一環になっていると感じられた。それは、面接した VC メンバーからの聞き取りで自信を持って説明する彼らの表情からありあり伝わってきた。メンバーセクレタリーに大きく依存してはいるが、その他のメンバーも一様にプロジェクトに対する説明が出来たことは、このスキームの透明性とオー

ナーシップの高さをうかがわせた。ただし、女性メンバーはそれと比べて説明できなかったもので、参加の度合いや意思決定への関与の度合いは引き続きモニタリングが必要である。

また、VC スキーム実施の前提条件としている Union Tax の 100%徴収という原則は維持されている。しかしながら、この納税プロセスがプロジェクトの期待する意図通りに行われ村人のオーナーシップを高める効果を発揮しているケースと、UP 議長の裁量によって「全員の徴収」ではない方法でこの条件をクリアしているケースがあることも確認された（JOCV 隊員報告書、JOCV 隊員からの聞き取りなどによる）。

(4) リンクモデルセル（LMC）の強化

官報によって、リンクモデルを公的に支援するための国レベル（JCC）、県レベル（県協議会）、郡レベル（ウポジラ協議会）での協力体制が整備される手はずとなっている。加えて、リンクモデルに不可欠な要因である UCC の設置についても官報が発行されることで、リンクモデル事業の後ろ盾が確保される予定である。

また BRDB 内におけるリンクモデルセルの位置づけは、関係者の努力によって着実に強化されている一方、リンクモデルセル内では定例会議を開催し、専門家や JOCV とのコミュニケーションを図ることで、フェーズ 1 で指摘されていたコミュニケーションギャップ問題は改善されている。

一方、月報発行、ウェブサイト立ち上げ、セミナー実施等、リンクモデルセルの活動を外部に広報する土台もできあがりつつある。

なお、調査団滞在中に開催された JCC（合同協議委員会）には、政府関係各機関からの委員が出席し、リンクモデルに関する情報を発信し、関係者に理解を求める場としては有効であった。ただし、ほとんどの出席者は正規委員の代理であり、また共同議長を務めることになっている LGED のセクレタリーは欠席であるなど、委員構成、開催案内方法など本 JCC にはいくつかの課題があるように思われる。

(5) 人材育成体制の確立

17 年度内に女性研修所（WTI）及びカリハティ郡事務所の施設整備が完了した。また、研修計画分野の専門家の指導により研修計画案が策定され、今後、同案に基づき WTI を活用して研修が実施される予定である。なお、本研修センターはプロジェクト期間中リンクモデルセル傘下に入ったので、「リンクモデル研修センター（LMTC）」と通称することが合意された。

3-3 PDM 記載内容の検討・PO の検討

調査団派遣前にプロジェクト専門家側から PDM 改訂の提案がなされたが、調査団との協議を踏まえ、現段階では PDM の大幅な改訂（プロジェクト成果の追加・組み替え）を行う必要はないとの結論に至った。今回は、これまで空欄であった指標を入れる作業を行ない、最小限必要な活動の追加を行うにとどめ、対外的発信機能の強化等、活動上有効な項目については、既存の枠組みの中で PO の活動計画に盛り込むことで対応することとした。

今後、成果や指標を見直す必要が生じた際には、中間評価時などの機会を捉え、バ側や国内関係者と十分な協議を行うこととして確認した。

3－4 バ国におけるローカルガバナンスの現状

現在、バ国においてはローカルガバナンス分野において、特にユニオン評議会の機能強化に取り組む動きが活発化している。同分野における活動状況の概要は別添のとおり。

第4章 調査団提言

4-1 UDOs 及び Os

UDO が日常的に行っている VC 設立準備、VCM モニタリング、ユニオン税徴収努力、VC スキーム計画、実施などについては今回の調査では実際に見聞することはできなかったが、当面は必要とされる業務量と実際の業務実施能力のギャップが大きい状態が続くことが予想される。このため、それぞれの UDO/O の能力を見極め、それに応じた業務の優先順位付けを指導するといった対応が必要ではないだろうか。

エレンガで視察した UCCM の議事進行については、業務開始から日が浅いため UDO のファシリテーションには課題が多く、参加者の発言を促す、行政サービスに関する情報を引き出す等の実務上の工夫が求められる。一方 VC スキーム実施における透明性確保については、特に慎重なモニタリングが必要である。

UDO/O の能力強化は今後のフォローアップ研修もさることながら、現場での OJT の重要性が高いと考えられることから、実情を踏まえた OJT 体制の強化が模索される必要がある。

また JOCV 隊員の活動地域では、隊員による活動状況モニタリング、OJT も適宜活用することが期待される。

4-2 UCCM

バ側も日本側専門家も、リンクモデルの理念を説明する際に UCCM における各種政府サービス提供者 (NBDs) との連携機能を重視している。しかしながら実際には NBDs の UCCM 参加は UP 議長の権限が及ばない部分でもあり、より上位 (中央省庁、県レベル) からの命令といった「ハードな」対応、あるいは VC からの強いニーズ、NBDs 間の相互情報共有 (Peer Monitoring) といった「ソフト」な対応が必要である。後者の場合は UDO/O の力量に依存する部分も大きいので、力量不足の UDO/O を側面支援するような何らかの形での方策を制度化していくことが模索されるべきであろう。

4-3 VC

下意上達の仕組みが出来ているという点において、VCM と UCCM はともに機能している。ただし、VCM では参加者は「村の問題」というより「個人の問題」についてのみ質問していたこと、またそれに関して UDO やプロジェクトスタッフから明快な指導が行われていなかったことから、NBDs の情報が末端の住民にきちんと届いているか、あるいは、サービスが裨益しているかという点においては課題が残っている。また、掲示板が古くなってきており何らかの改善が必要である。掲示が村人にとって「見たい情報」とはいかなくとも、せめて「発信したい内容」にはなるべきで、そのためには、NBDs への働きかけは必須であろう。

また、バ側のプロジェクト・ダイレクター (PD) は TAPP に機械的に記載された VC 設置の数値目標達成を重要視している。しかしながら、数値目標達成のために十

分な社会的準備プロセスを省いて VC を設立することは、VC スキームの質的低下、オーナーシップの低下、将来的な社会的不和の原因ともなりかねない。従って、特に UDO/O が業務に慣れる一年間程度はいたずらに数値目標に走らず、VC の設立プロセスを丁寧に行うことにより UDO/O の能力を強化し、VC の主体性を涵養することを重視すべきであろう。

一方休眠 VC については、JOCV 隊員の情報収集能力を活用して、休眠状態に至った理由等についての調査を行い、今後のリンクモデル普及に当たってどのような点に注意すべきかの教訓を得る素材とする事が求められる。

さらに、ユニオン税徴収は、リンクモデルの一つの「売り」であり、特に中央省庁の幹部には非常にインパクトがある。しかし、これは BRDB の本来業務ではなく、リンクモデルの今後の普及のためには、なぜこの作業が必要なのかという理論的な位置づけを明確化する必要があると思われる。

4-4 住民参加の範囲

本プロジェクトでは、村から郡に至るまで各ステークホルダーの参加を促進し、行政と住民をリンクさせる試みに取り組んでいる。一方で、例えば VC メンバーは住民を代表する立場にあるものの、一見すると高齢の男性と比較的裕福な女性に偏っており、弱者（寡婦・老人・障害者・低位カースト等）の意見を代表しているとは必ずしも言えない側面もある。

今後、本プロジェクトのアプローチを普及する上で、リンクモデルがどの程度の参加を見込んでいるシステムであるのか明確にし、システムの限界についても考慮しておくべきである。

4-5 カウンターパート研修について

本邦で実施するカウンターパート研修は、参加者に対してある程度のインパクトを与えていることは事実であるが、費用対効果の観点から他のオプションの検討も必要であろう。本邦研修派遣は最小限にとどめる一方、国内・近隣諸国（例えばインド・西ベンガル州）における研修の可能性を探り、関係者の保有するネットワーク（例・シャプラニールのプロジェクトサイト、人的つながり）を活用しつつ、効率的に実施する方策を検討すべきである。

4-6 リンクモデル・アプローチの普及可能性を高める努力

(1) 事例の蓄積

現場レベルでは日々多様な課題に直面しており、現場で解決できない場合はリンクモデルセルにいる専門家と C/P が協議しながら課題への対処方針を定めている。今後、PRDP の全国規模での普及を念頭に置くのであれば、現場オペレーションの標準化は必須であり、そのためにも事例を蓄積し、実務的なガイドラインを整備していくことが求められる。BRDB 側は UDO/O からの月例報告という形でノウハウが蓄積されていると認識しているが、これでは十分ではない。この部分は日本人専門家の指導を通じ、より体系的で応用が可能な情報収集・整理、活用の方策を模索すべきである。また、

この点に関しては JOCV の日常活動で蓄積される様々な知見の活用も必要である。特に現場で日々の活動に携わり UD0/O のとまどいを共有している協力隊員の経験を記録することは今後のリンクモデルの普及を考える上できわめて重要である。

(2) 他ドナーの動向と本プロジェクトとの整合性

現在、バ国においてローカルガバナンス分野での他ドナーの活動が本格化しつつある状況が確認できた。特に、世銀の準備しているプロジェクトでは、ブロックグラント（ユニオンに一定の開発資金が割り当てられる）を梃子とした UP の機能強化が予定されている。世銀プロジェクトでは、主たるターゲットがユニオンレベルであり、かつ金額の投入規模が大きいためユニオンレベルでの活動（UCC 等）を行っている本プロジェクトにも何らかの影響があることが予想される。このため、本プロジェクト日本側専門家、JICA バングラデシュ事務所では、こうした動きにどのように対応すべきであるかの議論が高まっていた。

しかしながら、世銀のアプローチはユニオンのガバナンス能力の強化が主であり、ユニオン以下のレベルにはほとんど無関心である。一方本プロジェクトは農村開発の文脈で UCC を位置づけており、農村レベルでの NBDs を活用した UCC 強化を目指している。この意味で、世銀プロジェクトと本プロジェクトが根本的に矛盾するわけではない。また世銀プロジェクトは一過性のムーブメントである可能性も否定できず、現段階で本プロジェクトの方向性を即座に変える必要はないと考えられる。

したがって当面は、PRDP のプロジェクト活動の範囲内でユニオンレベル以下の活動を地道に続け、具体的に世銀プロジェクトが動き出した段階でバッティングや支障が生じた場合には、適宜対応策を取り、そのプロセスで PRDP として維持すべきアプローチを明確にし、必要があれば PRDP のアプローチ自体を修正していくという方針で対処することによってよいと思われる。

(3) プロジェクトの発信機能強化

本プロジェクトは、他のドナーが「ローカルガバナンス」という視点から上からの制度構築に力点を置く中で、ユニオン・村レベルでの「コモンインタレスト」を重視し、行政サービスを利用しつつ地道な村落開発活動を行っている。この点は他ドナーと比較してもユニークであり、そのユニークさや現場のグッドプラクティスを意識的に外部に発信していくことが必要である。発進のための素材は十分にあると考えられるので、今後、プロジェクト専門家に限らず関係者を動員して JICA として積極的に広報することが期待される。

一方、本プロジェクトのアプローチ（現場に日本人を投入する、ボトムアップな VC の設立過程を丁寧にフォローする、コンサルタントでなく現地行政機関を最大限活用する等）と、他ドナーが採用するアプローチ（現場に外国人専門家はいない、トップダウンで一律なシステムを作る、コンサルタントに実施業務を任せ現地行政官をバイパスする等）それぞれの長所・短所を客観的に比較検証する作業は必要である。これは、広く日本の援助アプローチの比較優位・比較劣位の検証作業の一環とも捉えられるので、JICA 本部（国総研等）の調査研究活動との連携、UNDP との合同調査など

の可能性も含め、プロジェクト専門家に任せるのではなく JICA バングラ事務所、JICA 本部の活動として調査を実施することも検討すべきであろう。

(4) プロジェクトの到達点の明確化

本プロジェクトの PDM においては、①リンクモデルを郡レベルで機能させ、②今後の普及の体制を整えることが目的とされている。この2つの目的のバランスをどのように捉え、今後の投入資源をどのように配分するのかを明確化する必要がある。この場合、①に力点を置いた活動を進めれば自動的に②の条件が整う、という想定は適切ではないと考えられる。フェーズ1からの経緯を考えれば、リンクモデルの有効性は既に実証されているものとして、①の活動を通じて②のために必要な情報・ノウハウを蓄積し、プロジェクト終了時には②が準備されている、という状態に至ることが理想であろう。上位目標にあるように、バングラデシュの農村開発・ローカルガバナンスに関わる政策の中でリンクモデルのアプローチが一定の認知を得、何らかの形で制度化していくことが目指されるのであれば、①の活動と平行して、②のための様々な選択肢を準備する作業にも投入が必要であろう。

従って現在のカウンターパート機関であり、リンクモデルの実施主体である BRDB の能力強化、制度構築はもちろん必要だが、LGED に派遣されリンクモデルの応用活動を行った伊藤隆専門家（個別派遣：2003-2006）の成果も踏まえ、BRDB 以外の主体によるリンクモデル普及の可能性も視野に入れ、それをサポートできるマテリアル・ノウハウの蓄積を視野に入れる必要がある。

すなわち、今後の普及を前提とする本プロジェクトにおいては、普及に耐えうる普及版リンクモデルを数バージョン想定し、それらの実施・検証も考慮する必要がある。そのためには、リンクモデルのコンポーネントの中でのプライオリティをつけ、絶対に欠くことのできない核コンポーネントを中心に、出来るだけスリムにすることも検討される。リンクモデルの手法・哲学を余すことなく伝える完全バージョンは「モデル」としてタンガイルで確立し、普及バージョンはできるだけ簡単にし、核となる部分が普及するという形が想定される。

(5) 農村開発と行政支援の視点

本プロジェクトは農村開発案件であるが、現在バ国において政府や他ドナーが支援する地方行政強化の対象はユニオンであり、本案件でユニオンを中心とした枠組み形成を目指す以上、地方行政の要素を全く切り離して考えることは難しい。

本プロジェクトを「農村開発」の文脈で捉えるなら、農村に住む一人一人の生活者に焦点を当てつつ、かつコミュニティ全体を巻き込んだ活動が展開されるべきであり、その意味で弱者の存在とその対策は切り離せない問題である。また、JCC でも指摘されていたように保健・教育・収入の向上など生活向上への取り組みとそれに対する評価が必須になる。

一方「ローカルガバナンス」という文脈には、ユニオンを中心とした自治組織作りを核に公共サービスをいかに分配するかという視点で活動が展開される。リンクモデルではそれに加えて「皆で作り上げる」「自分たちの村をよくする」という自治の精神

がこめられている。行政サービスの住民レベルへの浸透と自治組織の結成と育成は、本来の意味において「行政支援」と言える可能性があり、(4) に述べた住民参加の範囲を考慮する上で重要な視点であると言える。

現時点では、プロジェクトの枠組みを行政支援的な内容に大きく変更するのではなく、「ローカルガバナンス」の文脈の中でリンクモデルの利点を強調しつつ、対外的に発信していくことが望ましい。

以上

運営指導調査団帰国報告会資料 (2007 年 9 月)

第1章 調査の概要

1-1 調査団派遣の経緯

バングラデシュ国（以下、バ国）では貧困層の約80%が農村部に居住しているが、縦割り行政の弊害やリソースの不足から教育・保健衛生等のサービスが十分に農村住民に行き届いておらず、経済的貧困だけでなく教育・保健衛生面における社会的貧困も深刻な問題となっている。また、地方行政が未発達であるため、住民の要望を行政側が吸い上げる仕組みが機能しておらず、住民の地方行政への参加意識は醸成されにくい状況にある。

このような状況の中、JICAは1980年代からの研究協力を通じ、行政と住民を結びつけるアプローチ（縦のリンク）と、各行政サービスを結びつけるアプローチ（横のリンク）に着目し、村落住民に対して適切な行政サービスを提供するための仕組み「リンクモデル」を構築してきた。2000～2003年度には技術協力プロジェクト「住民参加型開発行政支援（PRDP）」（以下、フェーズ1）を実施し、タンガイル県カリハティ郡の4つのユニオンにおいて同リンクモデルが導入・実施され、プロジェクトを通じて村落住民のニーズにあった普及サービスが効率的に実施されることが実証された。

バ国政府は、リンクモデルの定着と拡大を目的とした更なる協力の実施を我が国に要請し、これを受け、JICAはバングラデシュ農村開発公社（以下、BRDB）をカウンターパート機関として、タンガイル県（12ユニオン）、メヘルプール県（2ユニオン）、コミラ県（2ユニオン）の3県16ユニオンにおいて、2005年6月から5年間の予定で本プロジェクト（フェーズ2）を開始した。フェーズ1ではリンクモデルの有効性がユニオンレベルで実証されたが、リンクモデルのさらなる定着を図るために、フェーズ2では1郡全体を対象としてモデルの運用を図るとともに、制度定着に向けた汎用性・実用性の高いモデルを形成することを目指している。

現在、プロジェクト開始から2年を経過しており、2007年度中には中間評価を予定している。今般、チーフアドバイザーの交代を機に、中間評価に向けた進捗状況の把握やプロジェクト関係者との協議を行い、今後の方向性を明確にするために運営指導調査団を派遣する。

1-2 調査目的

- (1) プロジェクトの進捗状況を確認する。
- (2) 中間評価に向け、専門家やカウンターパート関係者と意見交換を行い、プロジェクト後半の方向性や活動方針を明確にする。
- (3) 協議・調査結果を踏まえ、調査団からプロジェクトに対する提言事項を取りまとめる。

1-3 調査団構成

	氏 名	所 属
1	佐藤 寛	アジア経済研究所
2	松本 賢一	JICA 農村開発部 第一 G 貧困削減・水田地帯第一チーム 職員
3	横田 健太郎	JICA バングラデシュ事務所 所員

1-4 調査日程

2007年8月13日（月）～8月21日（火）（9日間）

			スケジュール	宿泊
1	13-Aug	Mon	深夜着	ダッカ
2	14-Aug	Tue	事務所・大使館表敬打ち合わせ BRDB 表敬打ち合わせ	ダッカ
3	15-Aug	Wed	RDCD 表敬、LGD 表敬 JICA 打合せ（ガバナンス）、移動	タンガイル
4	16-Aug	Thu	カリハティ現場視察	タンガイル
5	17-Aug	Fri	移動	ダッカ
6	18-Aug	Sat	移動、LDCEP 現場視察	フォリドプール
7	19-Aug	Sun	移動、事務所報告	ダッカ
8	20-Aug	Mon	BRDB 協議、深夜発	

1-5 主要面談者

- (1) 地方行政・農村開発・協同組合省農村開発・協同組合局

(Rural Development and Cooperatives Division, Ministry of Local Government Rural Development and Cooperatives: RDCD)

Muhammad Nazrul Islam, Secretary

- (2) 地方行政・農村開発・協同組合省地方行政局

(Local Government Division, Ministry of Local Government Rural Development and Cooperatives: RDCD)

Muhammad Abul Quasem, Director General/Additional Secretary

Muhammad Zahiqul Islam, Deputy Chief

- (3) バングラデシュ農村開発公社

(Bangladesh Rural Development Board: BRDB)

Abdus Sobhan Sikdar, Director General, BRDB

A. K. M. Shafiqul Islam, Project Director, PRDP2

第2章 調査結果の要約

2-1 プロジェクト進捗状況及び課題

プロジェクト開始から2年以上経過し、各活動は概ね順調に推移している。成果の達成状況と課題の概要は以下のとおり。

成果（PDM）	指標（PDM）	達成状況	課題
ユニオン調整委員会（UCC）の連絡調整を担うユニオン開発官（UDO）及びオーガナイザー（O）がBRDBの行政官として育成される。	1-1 UDO16名とO16名がリクルートされる 1-2 80%のUDOとOがプロジェクト週例会議と隔月プロジェクト連絡会議に出席する 1-3 UDOがBRDBに月間報告を提出する 1-4 研修を受けたUDO、Oの数	1-1 リクルート済み、欠員補充済み 1-2 週例会議、四半期会議開催（全UDO/Oが出席） 1-3 定期的に提出 1-4 スキルアップ研修3回、西ベンガル州研修1回、シラジゴンジ訪問研修1回	・持続性・継続性の確保 ・円滑な業務の遂行、ファシリテーション能力の強化（質を高める努力） ・欠員補充手続きの迅速化 ・地元青年男女の雇用・育成
UCCが、郡、ユニオン(行政村)、村落間の連携を強化する土台として機能する。	2-1 16のUCCが正式に形成される 2-2 関係者の出席率(UP 60%, NBDs 60%, VC 70%, NGOs 60%) 2-3 16ユニオンに掲示板が設置される 2-4 掲示された情報数 2-5 研修を受けたUCCMの参加者数(UP, NBDs, VC, NGOs) 2-6 PRDPがUpDCCの議事録に記載される	2-1 15ユニオンで形成済み（1ユニオンはポウルシヨバに昇格のため対象外） 2-2 平均60～70% 2-3 対象15ユニオンで360の掲示板設置 2-4 - 2-5 UPチェアマンワークショップ、西ベンガル州研修、シラジゴンジ訪問研修1回 2-6 -	・UP負担の継続的確保 ・スキーム予算公開に向けた年間活動計画策定 ・NBDサービスの選択と集中 ・地元ボランティアの養成 ・EPIキャンプの活用によるNBDサービス活性化 ・掲示板の有効活用
村落開発委員会(VC)を中心として農村住民の開発プロセスへの参加を確保する仕組みが機能し、この仕組みを通じて住民の生活の質が向上する。	3-1 各ユニオンでVCが60%の村で形成される 3-2 開催されたVCM数 3-3 形成された女性部会数 3-4 UCCMに提出されたVCスキーム計画書数 3-5 実施されたVCスキーム数 3-6 VCMに参加した各省普及員数 3-7 VCの80%がトレーニングを受ける	【VCをGCに名称変更】 3-1 全367村のうち179GCが形成済み（49%） 3-2 - 3-3 79女性部会形成済み 3-4 - 3-5 168スキーム 3-6 - 3-7 -	・活動停滞中のGCでこ入れ ・ジョイントGC、アンブレラGC等の取り組み ・スキーム妥当性審査、監督/検査体制・能力の強化 ・スキーム手続きの簡素化 ・スキームの継続的メンテナンス
リンクモデルの実施体制がBRDBにおいて強化される	4-1 Dist.DD、URDO、ARDOがUCCMに出席した回数 4-2 リンクモデルセルに提出されたリンクモ	4-1 - 4-2 -	・効果的な広報 ・BRDB実施能力の強化（計画部・研修部の連携強化） ・成果の取りまとめ方

	デルに関する Dist.DD の報告書数 4-3 開催された会議数 4-4 ホームページの開設 4-5 実施されたセミナー 数 4-6 リンクモデルセルに よって作られたアク シヨンプラン 4-7 UCC 設立の官報 4-8 リンクモデルセルが BRDB 組織図に位置 づけられる 4-9 リンクモデルの認知 度が向上する	4-3 - 4-4 開設済み 4-5 - 4-6 - 4-7 官報発行済み 4-8 - 4-9 広報活動の実施（月 報、TV 広報等）	・郡への埋め込み
リンクモデル普及の ための人材育成の体 制が確立される	5-1 整備された研修施設 5-2 作成された研修計画 5-3 リクルートされた講 師数 5-4 作成された研修カリ キュラム数 5-5 DD, AD (Training)が UCCM と VCM に出席 した回数	5-1 整備済み 5-2 作成済み 5-3 - 5-4 - 5-5	・BRDB による研修継続の ための方策検討 ・フィールドタイプ研修 の位置づけ（NBD 訪問 との違い） ・研修範囲の絞込み
<その他>			・インストラクター有効 活用 ・メヘル、ティタシュの 実施体制強化 ・LGSP 対象地域における PRDP の活用 ・CIRDAP 活動の継続

2-2 今後の活動計画

本調査結果を踏まえ、プロジェクトにおいて今後の活動計画を策定し、関係者と共有する。

第3章 調査結果及び提言

3-1 これまでの投入実績

(1) 2005 年度

長期専門家：2名（チーフアドバイザー、業務調整）

短期専門家：2名（研修計画、農村開発／参加型開発）

在外事業強化費：施設整備、研修 施設用資機材購入等

国別研修：6名（RDCD 次官、BRDB 所長、PRDP2 プロジェクトダイレクター、カリハティ郡 UNO、LMTC アシスタントダイレクター、LDCP プロジェクトダイレクター）

(2) 2006 年度

長期専門家：2名（チーフアドバイザー、業務調整）

短期専門家：2名（研修運営管理、農村開発／参加型開発）

在外事業強化費：VC スキーム実施、研修等

携行機材：プロジェクト用車輛

(3) 2007 年度（予定）

長期専門家：3名（チーフアドバイザー、業務調整、農村開発／参加型開発）

短期専門家：2名（研修運営管理、農村社会分析）

在外事業強化費：VC スキーム実施、研修等

調査団：運営指導、中間評価

国別研修：1～2名

3-2 各活動の現状と課題

3-2-1 総括

プロジェクトの各コンポーネントはそれぞれおおむね順調に推移していると考えられる。

各専門家もそれぞれの特性と能力を最大限発揮して、ユニークな成果を上げており、全体としてのチームワークも円滑である。カウンターパートとの関係も良好であるように見受けられる。

個々の活動の中でそれぞれに注目すべき展開（例えば合同村落委員会（グラム・コミティ＝GC））やユニオンレベルの「ソフト・スキーム」など）がある一方、思うように進まない活動もあるがこれは取り組む対象村落数を増やしていく過程では避けられないことであり、大きな問題であるとは考えられない。

問題は、個々の活動が相互の関連が薄いままに進められていて、総花的という印象を与える結果になっていることである。これが、訪問者をして「何を目指しているのかわからない」という問いを発する契機となっている。現状の専門家、予算規模、カウンターパート並びにカウンターパート以外のステークホルダー（特にウポジラレベル以下の各種普及員、UP 議員など）の能力を考慮して、本プロジェクトの活動を整理し

- ① 切り捨てる活動
- ② カウンターパート以外にハンドオーバーする活動
- ③ カウンターパートにハンドオーバーする活動
- ④ コミットを大幅に削減しつつ維持する活動、

⑤ 現状通り維持する活動

⑥ コミットを多少増加する（あるいは新たに取り組む）活動
に分けて、作業分担表を作成すべきであろう。

以下、いくつかの活動コンポーネントについて所感を述べる。

3-2-2 ユニオンレベルでの取り組み① UCCM（ユニオン調整委員会）

「ウポジラレベル－ユニオンレベル－村落レベル」の三層構造を考えると、現在のプロジェクト活動はユニオンレベルでの活動に力点が置かれているように見受けられる。これは、ユニオンが世銀・UNDP などによって強力に推進されようとしている「LGSP（地方行政支援プログラム）」による「丸投げ予算（ブロック・グラント）」の受け皿となることとも無関係ではないと考えられる。このプロジェクトのインパクの大きさを考えるならば、当面の地方行政の単位がユニオン・ポリシヨドに収斂することは自然な流れである。

しかしながら、「ユニオン・ポリシヨドには UP 議員がいるので村人の意向が自動的に反映される単位である」という想定は現実的ではない、という認識が本プロジェクトの前身である研究協力の一つの成果であったのではないだろうか。それ故に、本プロジェクトでは村落（グラム、パラなど）単位での委員会（GC）を形成し、これを足がかりにして UCCM に代表を送ることで、UP 議員・UP 議長の活動の透明性を高め、住民のニーズに応じた地方行政を実現しようとしているのである。これがリンクモデルの一つの出発点であった。すなわち、大切なのは UCCM だけではなく、その基礎にある GC のあり方である。この意味で、UCCM の活動に多くの UDO、O、RO、RA の時間とエネルギーが割かれているのは理解できるが、プロジェクトの持つリソース全体の中で、UCCM の運営にどの程度の投入が妥当かを再検討する時期に来ているように思われる。

3-2-3 ユニオンレベルでの取り組み② UP コンプレックス（ユニオン庁舎）活性化

GC スキームが主としてパラ道路などのインフラにばかり集中するという点を反省して（?）、より広域の「公共性」のための事業を誘導するために「ソフト・スキーム」が案出され、昨年から実施されているという。これによって植樹祭、独立記念日イベント、裁縫教室など非インフラ系の事業をプロジェクトの中で行うことができるようになった。一方、図書館建設など公共施設建設も特に UP 議長のイニシアチブがあるところでは行われている。専門家の説明によれば、こうしたソフト・スキームによって、「周辺の人々へのリンクモデルの広報」が可能になり、図書館や裁縫教室を UP 庁舎などで行うことによって、従来訪れる人もまばらであった UP 庁舎という場自体を活性化することができ、それによって副次的な効果（女性の外出機会の増加、商業活動の活性化など）も期待できるという。そうした副次的効果があることは確かだが、限られたプロジェクトのリソースの中で、そうしたユニオン庁舎の活性化を目指した活動をすることが、本来のプロジェクト目標とどのような関係があるのかを整理する必要がある。なお、インフラ中心のプログラムである LDCP では、「UP 庁舎の活用

率向上」がもともとの目的であり、そのために村の活動や NDBs を活用しているが、本プロジェクトはそうした順番で物事を考えてはいないはずである。

3-2-4 村レベルでの取り組み① GC 会合と GC 形成

フェーズⅡに入ってからカウンターパートである PD(プロジェクト・ダイレクター)の意向もあって GC の設立数増加が計られた。しかしながら、

- ① 設立された新規 GC のフォローアップが十分に行われにくい
- ② GC の数が増えると、当該ユニオンの普及員数が限られている中で、毎回の GC 会合に要望通り訪問することが不可能、

という問題が顕在化している。②の問題に対する工夫として二つの GC 会合を同じ場所で同時に行なう合同 GC という試みも行われている。これは元々、ティタシュ、メヘルプールという、リンクモデルの波及地（後進地）から出てきたイノベーションであるという。こうした合同 GC は普及員不足への対応とともに、会合のマンネリ化打破という効果もあるという。現在はこうした GC 運営に本プロジェクトの集落レベルでの活動の力点が置かれている。

しかしながら、今後のリンクモデルの拡大を視野に入れるならば、ユニオンレベルでの GC 代表がきちんと機能するかどうかは、毎回の GC 会合の内容の充実、さらにはそもそもの GC の形成プロセスにも大きく左右されると考えられる。この点については、視聴覚教材でも「GC 形成」のモジュールが作成されているが、現在は一通りの形成が済んだこともあるのか、プロジェクトの中でこの点に関する関心が薄れているように感じられる。もし、形成後の GC のモニタリングが現システムでは困難であるのなら、それに対応した簡易モニタリングの方法、あるいは GC 会合なしに GC の代表性を確保する方法などを考えるべきではないだろうか。

3-2-5 村レベルでの取り組み② GC スキーム

バングラ国内から本プロジェクトに訪問者がある場合、最も魅力的に映るのは本プロジェクトが、公共事業（小規模村落インフラ）が村人の手によって透明性をもって実施され、予算通りに完成するという点である。現在、五万タカ規模の小規模インフラ事業が、村人による 20 パーセントの自己負担、集落単位のユニオン税完納を条件に実施される。

このやり方は、バングラ人にはとても新鮮な活動であり、訴求力が強いコンポーネントとなっているのは、本スキームが研究協力以来の試行錯誤の中で編み出されたものだからである。この点は、他のドナーのトップダウンの農村開発・参加型開発プロジェクトとは全く異なる特徴としてより積極的に発信していくべきである。

しかしながら本プロジェクトにおける GC スキームが、どれほどバングラ人の琴線に触れるシステムであるとしても、間もなく開始される LGSP では、同様な目的に使用可能で、自己負担や税金納付の必要がないブロックグラントが遙かに大きな規模(数十万タカ)で流入してくる。従って今後 LGSP の対象となるユニオン（初年度は 1 千ユニオンが対象、四年後には全国の 4 千あまりのユニオンすべてが対象になる予定）では、GC スキームの存在意義が失われてしまうのではないかと危惧する声強い。

これを本プロジェクトの危機ととらえることもできるが、むしろ現段階において GC スキームの位置づけを明確にする好機と捉えるべきであろう。従来 GC スキームは参加型開発の実践練習、村人の公共性を涵養するための試金石などとして位置づける意見があった一方、本プロジェクトの長期的な目標はユニオン・ポリシヨドという行政単位を「村役場」化することにあり、農村小規模インフラは役場の本来業務であるから GC スキーム自体がプロジェクトの根元的なコンポーネントであるとの意見もある。「GC スキームは、本プロジェクトのプロジェクト目標にとって、ツールなのか、目的それ自体なのか」について早い時期（数ヶ月以内）に明確にしていく必要があるだろう。

3-2-6 村レベルでの取り組み③ 女性委員会（モヒラドール）

現在、村の女性委員会はいくまでも村落委員会の下部機関として位置づけられており、フェーズ I 以来のこれまでの実践（トイレ建設事業など）とその結果のモニタリングなどを踏まえて、「女性だけに裨益する公益的活動が少ないところでは、女性委員会の形成・維持に労力を投入することはあまり有効ではない」という結論に達しているようである。それ自体は裏付けのある妥当な判断だと思われるが、プロジェクト評価（中間評価・終了時評価など）の時には、農村開発プロジェクトである以上必ずや「ジェンダー配慮」について問題にされることは確実なので、本プロジェクトにおける女性の生活向上に対する配慮のあり方について理論武装をしておく必要はあるだろう。なお、姉妹プロジェクトとも言える LDSP では、本プロジェクトの GC に当たる WDP（ワード開発委員会）設立と同時に、同一ワード内に二つの女性フォーラムを結成し、ジェンダー配慮をアピールしている。もちろん、その内容がどの程度女性のニーズを反映できるものであるかは詳細に検討しなければならないが、こうした取り組みも適宜参考にするべきであろう。

一方、本プロジェクトでは、女性グループは主として女性の JOCV 隊員のエントリーポイントとして活用されており、その場合裁縫研修のニーズが上がってきがちである。しかしながら、裁縫研修はそれ自体が所得向上に直結しないとはいえ、「公共利益」を核とする本プロジェクトの当初設計には馴染まない。従って、こうした個人的な技能向上のプロジェクトは隊員支援経費の範囲で、隊員活動として行うほうが今後の持続性という点からも望ましいのではないだろうか。確かにこうした活動は貧困女性の所得向上という目に見えやすい、あるいは一般受けしやすい活動であるが、類似の取り組みは他のドナーや NGO が行っているのであり、「公益（Public Interest）」という原則から逸脱すると、ただでさえ拡散している印象を与える本プロジェクトに、さらに制御困難なコンポーネントを取り込むことになると危惧される。

3-2-7 NDB サービスデリバリー

リンクモデルの「公益」主義と並ぶもう一つの出発点は、「政府のサービスを村人に届けるリンクを作る」ことであつたはずである。プロジェクト自体が新たなサービス供給を行なうのではなく、既存の NDBs を活用することで NDBs も村人もハッピーとなる「Win-Win」関係を作るという点に、本プロジェクトの、他のドナープロジェク

トにはない独自の売りがある。しかしながら現在リンクモデルを活用した **NDBs** のサービスデリバリーは、普及員の人員不足、インセンティブ不足などを理由に曲がり角に来ているように見受けられる。これに対して、**UDO** がトレーニングを受けて普及員の代役をするといった工夫も行われている。これ以外にも、**GC** の仕組みを通して、研修を受けた村人が他の村人に教える（ファーマー・トゥー・ファーマー普及）ようなインセンティブや信頼関係を構築する、などのさらなる工夫を積み重ねていくことが重要であると考えられる。

LDGP（地方開発調整プログラム）は、**GC** スキームなしに **NDBs** のサービスデリバリーを誘因としてリンクモデルが機能している。これにはウボジラ（＝郡）長（**UNO**）の巻き込みが不可欠だが、**LDCP** では、**UNO** にこうしたプレッシャーをかけられる **LGED** のウボジラエンジニアが存在するのに対して、**PRDP** では、同じ位置づけにあるウボジラレベルの **URDO** にそれだけの力がないと言われる。しかしながら、何らかの形で **UNO** の巻き込みがユニオンレベルでの **NDBs** のサービスデリバリーに大きな影響力を与えるとすればこれに対する働きかけを工夫するべきであろう。

3－2－8 ウボジラレベルの活動

上記の意味で、ウボジラレベルでのプロジェクトの介入は重要だが、本プロジェクトでは現在これが最小限にとどまっている。カリハティ郡では、日本に研修に行った **UNO**（郡長）が本プロジェクトの趣旨を理解し、協力的でないユニオン議長に苦言を呈するなど様々な後方支援をしてくれていることでずいぶんと助けられている*。

しかしながら、単に個人的な理解に依存するのではなくシステムとしてリンクモデルを拡充・維持していくためには、現在行われているウボジラ合同調整会議（**JCC**）の場の活用以外にもウボジラレベルでの活動をもう少し戦略的、計画的に行い、その成果を適宜モニターしつつ次の手を打っていくべきではないだろうか。ウボジラレベル、ディストリクト（県）レベル、さらには中央レベルである程度の政治的プレッシャーが必要であれば、ドナーという外部者の力を活用することも戦略的に考えられて良いのではないだろうか。

（*同人は、本邦研修中の受講態度等に関して問題が指摘されたことも事実である。しかし現段階でプロジェクトへの「側面支援」という成果が得られているという意味では十分に研修効果（投資効率）は上がっていると考えることができる。）

3－2－9 研修

GC メンバーのリフレッシュ研修は、一つのバッチが、5つの **GC** から4名ずつの計20名からなっており、一泊二日で行われている。これは **GC** の活動を自律的・持続的にするためにきわめて効率的、有効な活動であると考えられる。このペースで行くと、現存する200近くの **GC** の研修には40回の研修をしなければならないが、これは地道に継続していくべきであろう。ある意味で「リンクモデル」の再生産はこの場でしかできない。現場で逸脱、歪曲されていく「リンクモデル」をこのようなリフレッシュ・トレーニングで適宜軌道修正していくことがリンクモデルの精神の普及にとって肝要である。今後は国内のどの地域で形成されたリンクモデルに基づく **GC**（例

えばフォリドプールの LDCP 地域の WDC) に対しても研修機会が開かれていくことが期待される。

3-2-10 ファシリテーター

現在 UDO/O というファシリテーターを投入して、ユニオン議長の職務を支援していることで、UCCM が機能している。加えて PRDP 地域では RO/RA (リサーチアシスタント/リサーチオフィサー) も、PRDP I でこれらファシリテーターが担っていた仕事の一部 (GC 形成のための下調べ) を補助している。

こうしたファシリテーターの介入なしにはリンクモデルが「起動」しない、という点に関しては多くの関係者が合意している。しかしながら、中期的な展開 (3 年後のプロジェクト終了後) を考えるならば、現在のレベルでの手厚いファシリテーター配置が非常に困難であることもまた、すべての関係者が合意している。そうであるならば、

- ① 現在の形の UDO/O、RO/RA 以外のファシリテーター人材調達源の確保
- ② 起動時のみファシリテーターを配置して、その後ファシリテーター機能を持たないリンクモデル
- ③ ファシリテーターが広範囲をカバーできる仕組みのリンクモデル
- ④ はじめからファシリテーターなしのリンクモデル

のあり方についての経験とノウハウを蓄積していく必要がある**。

(**例えば円借款案件の大フォリドプール・プロジェクトの中のサブコンポーネントである「LGCP」では、一人のファシリテーター (UCO) が 2 つのウポジラ (= 2 つのユニオン) を担当している。)

3-3 地方行政強化にかかる他ドナーの支援状況

バングラデシュでは、UP 強化がローカルガバナンスにおける政策の潮流となっており、特に、UNDP によるパイロットプロジェクトにおいて実施された、直接交付金 (ブロックグラント) の交付、財政の公開、住民参加型での予算策定、小規模インフラ設置などによる UP のアカウンタビリティ強化が 2002~2003 年ごろから注目を集めている。この流れを受け、2005 年度にはバ政府自身による全 UP への政府直接交付金の交付が開始され、その拡大が PRSP に明記されている。さらに、2006 年 7 月からは、世銀の融資を受けて LGD が直接交付金の拡大、UP の財政能力強化等を目指す Local Governance Support Project (LGSP) が開始され、大きな注目を集めている。LGSP は、前述の UNDP によるパイロットプロジェクトでの成功を踏まえ、その拡大実施を図るものである。

バ国ローカルガバナンス分野では、LGSP の枠組み内あるいは周辺にドナー支援が収束する傾向が強まっている。LGSP の内容としては、世銀の支援を受け、パイロットプロジェクトの実施よりも、財政管理能力強化の要素が特に強調されている。

LGSP の枠組みの元に実施されているドナー支援の概要は以下のとおりである。

3-3-1 世銀

世銀は 2006 年 7 月からの 5 年間で全ユニオンに対する支援を行う予定である。予算規模は約 125 億円となっている。(そのほかバングラデシュ政府資金約 77 億円)、事業のコンポーネントとしては、1) UP に対する各種交付金の支援、2) UP から中央までを含む報告・モニタリングシステムの確立、3) UP の財政管理・情報開示の強化、4) プロジェクト評価や政策分析にかかる LGD の能力強化、5) UP 交付金による社会セーフティネットプログラムのパイロット事業実施、などがある。

特徴としては、中央から地方への財政移譲のシステム構築を目指しており、そのために中央と地方の財政管理の強化に主眼を置いている。また、ユニオンに対して直接支援するため、郡に基盤を置いている国会議員の不当な影響力行使を防止することが可能となっている。(この点は UNDP も同じ。) 一方、カバーしている範囲が全国であることから、コミュニティレベルでの関与が薄くならざるを得ず、コミュニティ参加の度合いの面で不安が残されている。

3-3-2 UNDP

UNDP の支援は LGSP-LIC (LGSP Learning and Innovation Component) と呼ばれており、1999 年から 2005 年の 5 年間に実施した SLGDP (Sirajiganji Local Governance Development Fund Project : 1999-2005)を踏まえて開始されている。

どちらもユニオンレベルでの地方行政強化を目的としているが、対象地域は SLGDP がシラジゴンジ県を対象としていたのに対し、LGSP-LIC では 6 県(各ディビジョンで 1 県)を対象としている。このため前者が 82 ユニオンを対象としていたのに対し、後者は 388 ユニオンをカバーする予定であり、予算規模も、前者が約 9 億円であったのに対し後者は約 21 億円(そのほかバングラデシュ政府資金約 14 億円)となるなど、大幅に拡大している。

プロジェクトのコンポーネントとしては、1) ユニオン評議会(UP)へ対する交付金の支援(郡を介さずに直接資金をユニオンに流す)、2) UP による財政管理体制の強化、3) UP のアカウンタビリティ強化(住民参加により事業計画を立案、予算の公開、など)、4) 地方行政人材育成のための枠組みの確立、5) 政策への反映などがある。

LGSP-LIC の特徴としては、先行の SLGDP に比べプロジェクトスタッフの役割を減らし、レベニュースタッフつまり常時雇用の人材を中心に活動を展開することで持続性に配慮した支援を行っていること、自治体のパフォーマンスと資金配分の関連性をより強くしたことなどがあげられる。

3-3-3 SDC

スイス政府も地方行政分野で、Trust Fund for Policy Reforms for Local Governance という支援を行っている。対象は不特定であるが、予算規模は 2007 年からの 5 年間で約 3.5 億円と、前 2 者に比べるとかなり小規模である。コンポーネントとしては、1) 地方分権政策支援と、2) 地方レベルのアカウンタビリティ・市民参加システム構築の 2 つである。UNDP、世銀が交付金での支援であるのに対し、SDC の場合は交付金というより、LGSP のカバーしていない分を補完する調査・研究・研修を行う基金で

あり、政策に対する貢献を狙っているといえる。

3-4 バ政府関係機関の本プロジェクトに対する認識

3-4-1 BRDB

本プロジェクトの実施機関である BRDB では長官が 4 ヶ月ほど前に交代になったばかりである。新長官は、UNO、Deputy Commissioner、Upazila development officer の経験もあるとのことであった。以下、長官から聴取した本プロジェクトに対する認識を記す。

現在 BRDB では 70 ものプロジェクトを実施中であるが、NDBs のサービス提供を対称にしているものは PRDP-2 のみである。PRDP-2 の成果を生かすためにも行政システムを強化する必要があるが、それには、各 NDBs の本省レベルで、PRDP の開発のシステムを認知してもらう必要があり、cabinet secretary を通じて、この点を各省の開発課題に含めておくよう要請する考えであるとのことであった。

また、PRDP-2 では村レベルと郡レベルでのよい連携が構築されており、これを他の郡へ広げていきたいとの認識を示された。そのため、プロジェクトが 2 年後に終了することを視野にいれ、計画課が中心となって、他の地域への展開を図るための作業に取り掛かっているとの説明がなされた。

なお、長官との会談では、リンクモデルを他の地域で展開するための将来ビジョンをまとめたペーパーが提示されたが、それによると、BRDB は PRDP-2 を非常に高く評価しており、今後は段階を追って、全国展開を図っていくとのことであり、いくつかの取り組みが示されている。それらを簡単に示すと以下のとおりとなる。

- ・リンクモデル主流化のため職員の再配置（ユニオンから本省に渡って。）。
- ・村落委員会やユニオン調整委員会は、BRDB のみならず、他の関係機関（NDBs、地方行政府、NGOs、村落住民代表）にとっても重要なものであり、すべての関係者の協力を確かなものとする。
- ・現プロジェクトの後継として、PRDP-3（2010-2015）を、50 から 100 のユニオンを対象として実施する。そのため、現在の関係スタッフを確保するためのプロジェクトプロポーザルを作成し、バングラデシュ政府の承認あるいは、ドナーの支援を求めていく。
- ・現在のスタッフにより、2008 年 1 月より、カリハティ郡近隣のユニオンでリンクモデルを実施していく。予算にはユニオン評議会への交付金を用いたい。また、BRDB 以外の NDBs から UDO を選出して、通常業務に UDO 業務を追加するなどの試みも行っていく。
- ・そのほか、現在は主としてマイクロクレジット業務（およびジェンダー関連業務）を行っている女性開発課の職員もより活用していく。（LMTC での研修を受講させる。）
- ・LMTC の職員は、今後数年で多くが退職するため、BRDB は新しく職員を雇用する。

これに対し、BRDB より提示された案を再確認する意味をこめ、調査団・専門家よ

りいくつか確認を行った。これらを簡単にまとめると次のようになる。

- ・他の地域での展開に必要となる UDO の育成は、BRDB 自己資金により行う。UDO 候補は ARDO あるいは女性プログラムの人材を選出し、LMTC で研修を受けさせる。講師はすでにリンクモデルを経験しているものが担う。
- ・他の NBDs からの UDO の選出は将来的な話である。おそらく BRDB で 400 ユニオン程度実施した後のことであろう。
- ・女性プログラムの職員がリンクモデルに携わるための省令（？）等の発布作業をすぐに開始する。
- ・LMTC の拡充等が必要であるが、そのためのドナー支援が必要である。
- ・BRDB の主要業務である小規模金融と協同組合に加え、リンクモデル活動を行っていくことで、より総合的な農村開発が実現される。

3-4-2 RDCD

今回の調査期間中、RDCD の次官（Deputy Secretary）から本プロジェクトに対する認識をうかがう機会があったが、農村部において貧困削減は第一の課題でありそのためにこのプロジェクトはきわめて重要であるとのことである。また、本プロジェクトを含む 4 つのプロジェクトが現在進行中であるが、それらを農村開発のためのモデル事業として考えており（本プロジェクトの他は、LDCP、LGSP、CVDP）、CIRDAP をこれら 4 プロジェクトの統合・調整の場として活用し、全国にその成果を展開していきたいとのことである。

このように、既存のいくつかの農村開発プロジェクトがいくつかある中で、PRDP-2 については、次のように認識しているとのことであった。まず、PRDP-2 は、対象地域が小さいが、事業の内容・捉え方は新しいものであるといった点である。つまり、開発の焦点をユニオンに置き、開発のプラットフォームとしてのユニオン調整員委員会を設置したという点、それから、そのプラットフォームを実際に活用して小規模インフラ整備事業を行った点である。また、バングラデシュでは、洪水などの災害にたびたび見舞われており、調査期間中も、各地で洪水の様子を目にすることがあったわけだが、PRDP-2 により機能し始めたユニオン調整員委員会を緊急援助の支援物資分配の場としてうまく活用したいとの認識も示された。

3-4-3 LGD

LGD では Additional Secretary 兼 National Project Director of LGSP と話をする機会があったが、LGSP も PRDP も農村開発のシステムの内部に根付かせていく必要があるとの認識を示された。そして、PRDP については、あたらしい開発のあり方を示してきたとの認識を示すとともに、LGSP とは活動の重複が起こらないようにうまく調整・協力していきたいとの見解を示された。（一案として地域ですみわけを行うことも示された。）なお、LGSP では既存の指揮命令系統を活用し、ユニオン評議会の議長や Rural Development Officer を通じて事業を実施していくとの説明があったが、ユニオン評議会の人員は十分ではないとの見解も示された。

3-5 プロジェクト後半に向けた課題

3-5-1 活動の焦点の絞込み

今回調査では、プロジェクト開始から2年以上が経過し、現場では徐々に成果が始めている現状が確認できた。一方で、本プロジェクトは対象のステークホルダーが広範に渡り、活動内容も非常に多様であるため、プロジェクトの本質やプロジェクトの期間内で目指す到達点について、関係者間の認識が必ずしも一致していない状況にある。本プロジェクトが多様なコンポーネントを抱える中、汎用性・多様性のあるモデルをPRDP-2が示していくためには、活動の焦点を絞り込み、これまでの活動で得られた様々な知見をそれぞれの独立した知見として発信していく作業も検討する必要がある。

すなわちプロジェクトでは、残り期間を踏まえ、PRDP-2を通じた教訓や知見の内容を明確にし、取りまとめる作業を開始する必要がある。具体的には、まずは今後1~2ヶ月を目処に、プロジェクト側で活動の力点を定め、関係者間で共有することが求められる。その上で、関係者で合意形成した軸に沿って活動を収斂していくことが必要である。

3-5-2 具体的な活動の軸

(1) ユニオン強化と普及サービスの充実化

リンクモデルの本質は、関係者によっても様々な捉え方が可能なものであるが、大別すると、ユニオン強化であるか、地方政府職員による普及サービスの充実化という観点に集約される。他ドナーによる地方行政強化の流れが加速する中、既存の行政組織・人員を最大限活用しているPRDP-2の取り組みはJICAの比較優位を示すことが出来る非常に意義深いものであり、今後の活動の方向性として、「地方政府職員による普及サービス充実化」に収斂していくことは、一つの可能性として検討していくべきである。

普及サービスを強化する場合、フェーズ2の実施意義でもある郡への働きかけをより一層強化する必要がある。また、他の実施機関の巻き込みが現場・中央のレベルで求められるため、それに応じた投入を整理する必要がある。

(2) 研修センターの活用

LGEDによる地方調整プログラム(LDCP)は、大フォリドプール圏20ユニオンにおいてPRDP-2とはやや異なった形で実施されている。実施機関であるLGED側は、今後LDCPを南部バングラデシュ地域(大フォリドプール圏、大ボリシャル圏、大クルナ圏)に拡大する意向を持っている。また、BRDB側も独自に5ユニオンでリンクモデルを導入する意向を示しており、2008年1月からの開始を目指し、準備を進めている。

このようにリンクモデルや類似案件が既に拡大傾向にある状況を踏まえ、タンガイル研修センターは少なくともプロジェクト残り期間内は最大限有効活用していくことが望ましい。すなわち、面的広がりを進める実施機関(LGEDやBRDB)に対し、研修センターが人材育成の面から貢献することは、リンクモデルの拡大を質の面から担保する意味で有意義な活動であると考えられる。これにより、PRDP-2の知見・教訓が

抽出されるとともに、LDCP や円借款との連携が促進されることが期待される。

3－5－3 PRDP-2 の知見・教訓の取りまとめ

知見・教訓の取りまとめについては早急に着手する必要がある。まずは、何を知見として発信するか、どのような形で取りまとめるか、につき関係者で合意形成する必要がある。また、外部発信を念頭に置く場合には、英文で成果品を取りまとめることも重要である。その際、必要に応じて現地コンサルタント等を活用することも検討する必要がある。

3－5－4 BRDB によるリンクモデル拡大構想

BRDB との協議を通じて、来年 1 月を目処に BRDB 側が独自にリンクモデルを他地域で開始する意向があることが確認できた。本プロジェクトとしては、BRDB 側の自立性を最大限尊重しつつ、研修センターの活動等を通じて可能なサポートをしていくことが望ましい。

以上